明治三十九年五月二十三日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百九拾八號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌

第百九拾八號目次

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衞生會

六月例會告知

來六月二日第一土曜日午後正一時半より神田區一ツ橋女子職業學校に於て本會の例會御開き候(晴雨共)當日の講話は**疾病治療に關する素人方の心得**にて尤も有益のものに有之候其他西山ドクトルの講話も有之候間御知友御誘引御來會有之度候也

一演題未定　ドクトル　西山信光君

一疾病の話（疾病治療ノ項）　ドクトル　富士川游君

明治三十九年五月

私立大日本婦人衞生會

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんことを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして許吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話をこひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告け其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　入會　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　本會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とする其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合により會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員生するとは會は次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす例會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得　但衣服は總て質素たるべきこと●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件評定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を設くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●雜件第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配付すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を簿冊に登錄し尚ほ本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送致とし別に返信料を添へらるべし（郵券送一割増）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込築土八幡町郵便扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

- 總裁　東伏見宮依仁親王妃周子殿下
- 會長　侯爵夫人鍋島榮子
- 副會長　濱尾作子

（いろは順）

- 幹事　鳩山春子
- 仝　羽田三枝子
- 仝　岡田徳子
- 仝　高木かう子
- 仝　山本多穂子
- 仝　松平芳子
- 仝　三浦教子
- 仝　石川貞子
- 評議員　岩下ゆか子
- 仝　濱田拾子
- 仝　長谷川仲子
- 仝　仁禮壽賀子
- 仝　四升子
- 仝　穂積歌子
- 仝　土肥多越子
- 仝　緒方悦子
- 仝　岡山とし子
- 仝　小川榮子
- 仝　男爵夫人加藤鉛子
- 仝　片山龜子
- 仝　吉武輝枝子
- 仝　丹波貞子
- 仝　高橋孝子
- 仝　田村きよ子
- 仝　男爵夫人南部限子
- 仝　中濱芳子
- 仝　子爵夫人松井正子
- 仝　岸澄子
- 仝　三宅藤子
- 仝　宮本樂子
- 仝　宮下咲子

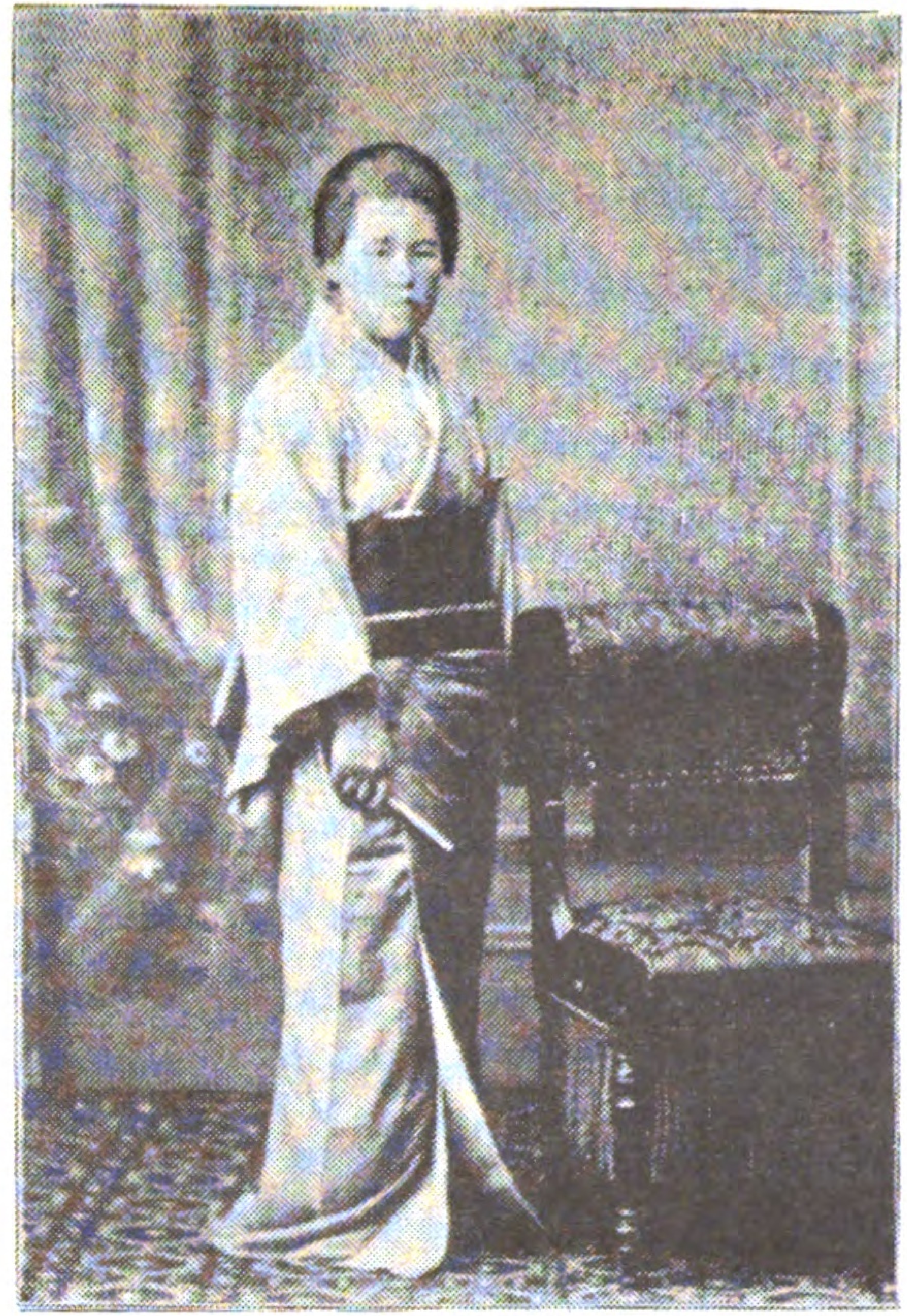
●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

〰〰〰〰〰

本會特別贊成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

- ●醫學博士　入澤達吉君
- ●理學博士　飯島魁君
- ●ドクトル　伊澤信平君
- ●色川圀士君
- ●醫學博士　伊東祐彦君
- ●ドクトル　飯盛挺造君
- ●醫學博士　伊藤隼三君
- ●理學博士　石川千代松君
- ●赤十字[illegible]內科[illegible]　岩井禎造君
- 醫學士　石原久君
- ●醫學士　船瀬雄一君
- ●醫學士　石原喜久太郎君
- 貴族院議員　濱尾新君
- ●醫學博士　濱川玄逸君
- ●法學博士　鳩山和夫君
- 東京　萩原綱四郎君
- ●醫學博士　芳賀榮二郎君
- ●長谷川泰君
- ●新潟　長谷川一銓君
- ●小兒科　小原賴之君
- ●醫學博士　岡田榮吉君
- ●醫學博士　林春雄君
- ●醫學博士　佐藤達次郎君
- ●醫學博士　緒方正規君
- ●歩兵中佐　堀内文次郎君
- ●醫學博士　土肥慶藏君
- ●醫學博士　岡田和一郎君
- ●醫學博士　大澤謙二君
- ●醫學士　大西秀治君
- ●醫學博士　大澤岳太郎君
- ●一等藥劑官　恩田重信君
- 醫學士　若杉喜三郎君
- ●男爵　加藤弘之君
- ●ドクトル　加藤照麿君
- ●醫學士　賀古鶴所君
- ●醫學博士　河本重次郎君
- ●醫學博士　片山國嘉君
- 醫學士　川上雅扶君
- ●醫學士　樫田龜一郎君
- ●醫學博士　金杉英五郎君
- ●醫學士　笠原光興君
- ●醫學士　唐澤光德君
- ●醫學博士　高橋順太郎君
- ●ドクトル　高山紀齊君
- ●醫學博士　高木兼寛君
- ●法學博士　高木豊三君
- ●醫學博士　田代義德君
- ●新潟　田代究助君
- ●醫學博士　高崎正風君
- ●男爵　高崎正風君
- ●醫學士　竹中成忠君
- ●醫學士　高田耕安君
- ●新潟醫學校長　高橋辰五郎君
- ●藥學博士　丹波敬三君
- 醫學士　高橋良衛君
- ●藥學博士　山原貞純君
- ●醫學士　川村光顯君
- ●醫學士　久保猪之吉君
- ●醫學士　米山彦郎君
- ●二等軍醫正　星野篠光君
- ●醫學士　宮本俶君
- ●三等軍醫正　横井忠國君
- 大日本教育會長　辻新次君
- ●理學博士　坪井正五郎君
- ●醫學博士　長與稱吉君
- 男爵　南部甕男君
- ●理學博士藥學博士　長井長義君
- ●醫學博士　中濱東一郎君
- ●醫學士　黒川玄通君
- ●醫學士　栗本庸勝君
- ●海軍中佐　小笠原長生君
- 醫學士　村松秋三君
- ●醫學博士　隈川宗雄君
- ●醫學博士　栗本東明君
- ●醫學士　山田鐵三君
- ●醫學士　山田弘倫君
- ●醫學士　山根正次君
- 岡山　山川春二君
- ●衛生試驗所技手　丸山長四郎君
- ●ドクトル　松山陽太郎君
- ●ドクトル　小此木信六郎君
- ●盲啞學校長　小西信八君
- 廣島　小泉貫君
- ●醫學士　古川榮君
- 東京　布施正顯君
- ●臺灣民政局長　後藤新平君
- ●元帝國大學教授　エ、ベルツ君
- ●醫學士　甲野棐君
- ●文部書記官　寺田勇吉君
- ●醫學士　寺山則作君
- ●醫學士　寺田織尾君
- 子爵　秋元興朝君
- ●前軍醫總監　足立寛君
- ●ドクトル　新井古芳君
- ●ドクトル　富士川游君
- 高崎醫會長　土谷余次君
- ●産科婦人科　水原漸君
- ●ドクトル　久保田誠勝君
- ●醫學博士　佐々木政吉君
- ●醫學士　淺田次君
- ●醫學博士　朝倉文三君
- ●ドクトル　朝山發六君
- 高崎　秋田聰太郎君
- ●醫學博士　佐藤三吉君
- ●醫學士　櫻井郁二郎君
- ●醫學士　佐藤恒久君
- ドクトル　佐伯理一郎君
- ●醫學博士　榊順次郎君
- ●醫學博士　榊保三郎君
- ●醫學士　櫻井恒次郎君
- ●醫學博士　桐淵鏡次君
- ●醫學士　北村榜造君
- ●醫學博士　北島多一君
- ●ドクトル　北川乙二郎君
- ●醫學博士　木下正中君
- ●醫學士　北島小太郎君
- ●醫學博士　北里柴三郎君
- ●醫學博士　三浦守治君
- ●醫學博士　三浦謹之助君
- ●小兒科專門　宮本仲君
- ●理學博士　箕作佳吉君
- ●醫學博士　三島通良君
- ●醫學博士　三宅秀君
- ●醫學博士　三輪信太郎君
- 伯爵　土方久元君
- ●醫學士　島村俊一君
- ●醫學博士　弘田長君
- ●ドクトル　日高昴君
- ●ドクトル　須田卓爾君
- ●醫學士　澁川徳君
- ●醫學博士　木村總衛君
- 醫學博士　森林太郎君
- ●醫學士　笹川三男三君
- ●醫學士　波多野惇君
- ●醫學博士　吳秀三君
- ●ミス　ヒュース
- ●ミセス　コーツ
- ●ドクトル　菊池循一君
- ●醫學士　櫛木左武郎君
- ●醫學士　鳥居春洋君
- ●ドクトル　土山卯三郎君
- ●ドクトル　佐藤迪雄君
- ドクトル　四山信光君



私立大日本婦人衛生會高崎支會々長
陸軍二等軍醫正星野葆光君夫人
星野清子



私立大日本婦人衛生會
新潟支會幹事
佐柳ちよ子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第百九拾八號
（明治三十九年五月二十日發行）

名家演壇

疾病の話（承前）

ドクトル　富士川　游君　講話
佃速記事務所員　速記

人間の身體は御承知の通り、耳もあり、鼻もあり、目もあり、手もあり、足もあり、さうして髮もあり種々な形になつて居りますけれども、その一番の根本と云ふものは細胞であります、人間では大層複雜になつて居りますから解り惡いけれども、鷄かなにかで御覽になれば直き了解る、鷄の生長したものは立派なものでございますけれども、その出來上らないものは彼の玉子であります、彼の玉子から毛も出來れば口も出來、足も出來る、それで色々なものが出來上つた所を御話するとナカ〳〵六ケ敷いのでありますけれども、一番根原に就て御話すれば能く解る。前回にも御話いたしました通り、此細胞と云ふものが澤山集り、さうして人間の身體が出來るので皮膚とか、毛髮とかを御覽になると全く其物が違つて居りますけれども、其根原を言ひますれば全く此細胞に外ならぬのであります、是は顯微鏡で證據を擧ぐる事が出來まして、今日吾々の研究して知つて居ります所は、全く確かなるものと思つて宜い、此物が澤山集つて例へば今佐藤さんの御話になりました腸と云ふものをこしらへるのであります、御覽になる通り腸は長い管の樣なものでありますけれども、その組織の根本は細胞と云ふものが何百萬か集つて拵へて居るのであります、さうして此腸には一定の作用がある、即ち腸は胃と同じく食物を消化するものであります、それからその細胞が尋常でありますると云ふと健康でありますけれども、若し何か外部から之を刺激するものがあると云ふと、さうすると此細胞がどうしても形が變らなければならぬ、

形が變ると云ふと元の健康の時の作用をしないやうになります、之を病氣と云ふのであります、即ち病氣と云ふのは、何か外に物があつて此細胞を刺激する爲に病氣と云ふものが出來る、例へば此處に膓の壁を、側から何か刺いて、(圖を示す)此處に斯う云ふ風な穴を開ける、さうすると此處から血が出る、それが病氣であります、要するに細胞と云ふものが一番原子で是が澤山集りまする云ふと組織となり組織が澤山集つたのが器臟であります、そうして其組織と云ふものは色々形が違ふ、例へば筋肉の組織骨の組織、皮膚の組織、斯う云ふ風に色々ありまして、五臟人體の臟器は皆これから組織されるのである、それで其組織の工合の惡くなつたのは細胞の工合の惡くなつたのである、其細胞の工合の惡い爲に平生の健康のときの作用はしない、病氣といふものは即ちこれから起るのであります。

それで此細胞を刺激する原因は身體の外から來るのと、身體の中から來るものとがあります、其身體の外から刺戟するものに、機械的と言ふのがありますこれは何か外から品物を以て刺くのであります、例へば鐵砲を以て傷を付ける、或は刀を以て傷を付けると云ふやうな、直きに目て見ることの出來る刺激である、それから電氣を以て刺くことがある、日光を以て刺くことがある、それからして化學的と云ひますのは早く言へば外から毒て以て刺くのであります、例へば酒とか阿片とか云ふ風な毒て以てやるのであります、其他空氣、或は土地、或は食物、或は電氣、或は日光、それから毒物、其次には寄生物と云ふものがある、人間の身體の外から來てそこて生活して居るものがある、是は今少し詳しく御話したいと思ひます。

寄生物、即ち外からして人間の身體に食客をするもの、是には動物と植物とあります、動物の方にはアメーバと云ふものがありまして、それは腹を下すのてあります、それからして「プラスモジウム」、是は間歇熱と云ふものを起す、特に御話したいのは此「プ

ラスモヂウム」と云ふものを持つて來るのは近頃の調に據りますと蚊であります、さうして其蚊は「アノフエーレス」と云ふ一種の蚊でありまして、此處に寫眞がありますが、此れは「アノフエーレス」を試驗管の中に入れて外から寫眞を撮つたのであります此蚊が瘧の原因となるべき寄生體を人から人に持つて行きます、即ち「マラリヤ」を病つて居ります人の血を吸ひまして、外の人の身體に持つて往つて刺込むのであります、此「アノフエラー」と云ふ蚊は日本て北海道及び臺灣などに多く居ります、(圖を示す)それから寄生動物の中に「ヂストマ」と云ふものがある、是は肝臟に居り又肺臟に居ります、日本では岡山、甲州、などには隨分澤山居ります、此れが肺臟に來ますと云ふと肺臟を刺激する、さうして此咳の中に血液が混じる、肝臟に來ますと云ふと肝臟を刺激してそこが膨れて腹に水が溜る、それから御承知の通り絛虫と云ふものが居る、頭に鉤のあるのとないのとがある、それから節が非常に幅の廣いのがある、(圖を示す)此處に澤山あります、絛虫は三種類あります、普通に澤山あるものは此分であります、して、これを廣節裂頭絛虫と言ひますが、頭が裂れて居つて幅が廣い、此絛虫は鱒、鮭等に多く居るのであります、それを生煮で食べる爲に人間の身體中に這入つて、さうして此ものが生活するのであります長さは西洋の尺度で五メートル乃至八メートル、一メートルは凡そ我三尺でありますから、五メートルは一丈五尺、八メートルは二丈四尺であります、腸の長さは凡そ十メートル、三丈でありますから、絛蟲の長さは大かた腸管の長さと同じ位でありますさう云ふ病氣を以て居る人は身體が痩せて色々な症狀を起すのであります。頭に鉤のある即ち有鉤絛蟲と云ふものは、節が少し狹い、さうして是は豚の肉を能く煮ない料理の仕方、或は日本の刺身などの如き料理の仕方では此絛蟲の玉子が何時か腹の中に這入り腸の中で生活をする、此頭に鉤のある絛蟲は豚の肉に居りまして、其長さは三メートル半、一丈と

少しになります、頭に鉤のない條蟲は是は牛肉の中に居る、四メートルから八メートルあります、此節の數は大變違つて居りまして、多きは四千、少いのでも八百五十ある、さうして頭から六百位の此節の所からして直き是は子を産む、それで通常條蟲が切れて出ますが、此頭の方は始終殘る、さうすると六百位の節から後に何時でも小供を産むのでありますから、尾が出ましても始終其中に又出來るのであります、條蟲は此三種類ある、それから蟯蟲と云ふものは腸の肛門の周圍に居つて、是は澤山居ります、それから蛔蟲、鞭蟲、旋毛蟲と云ふものは豚の肉の中にある、此豚の肉の煮方の惡い爲に是が腸に行き生活して筋肉の中に這入る、それから十二指腸蟲と云ふ寄生蟲が居りまして、此寄生蟲は貧血を起すの原因となるのであります(標本を示し)其他にもアングイルラ――此蟲は血液の中に居　ますけれども重に矢張り腸の中に入つて生活をするのでありま す、又疥癬蟲などと云ふのも居ります、唯今御話したやうに外部から來て人間の身體に寄生する蟲は澤山ある、是等の寄生蟲は皆な害をする、其害と云ふものは外から來て細胞を刺激するのであります。

以上御話したのは動物の方でありましたが、今度は植物の方を少し御話致しませう詰り植物性の寄生物でありまして、一般に黴菌と稱して居ります、花の咲かない植物、即ち蘚苔のやうな小さいものであります、又黴菌と云ふものの中には人體に非常に害をするのがあります、コレラ、窒扶斯、ペストなどは即ち黴菌のために起る病で、近頃の書物の中には色々此細菌の事に付て詳しく書かれて居りますから、大抵皆様御承知の事でございませう、て此細菌は御承知の通り種々なる病氣――殊に急性に傳染する病氣を起すのであります、又急性に感染りませぬ、病氣でも、例令へば癩病の如きもこの細菌の作用であります、それから此細菌のために起る病氣には色々ありますが、一番能く人の知つて居るのはコレラ、窒扶斯、ペスト、インフルエンザ、實扶的利、破傷風

など急性に感染する病氣が澤山ある、其他に細菌てなしに少し細菌よりも違つた、公黴植物が人間に附着いて病氣を起すことがあります、小僧の頭などに白雲と云ふものがありますが、是は「アヒリオン、シヨインライニー」と云ふ公黴植物のために起るのてあります、それから是は重に男でありますけれども、髯の側に(標本を示す)斯う云ふ風な腫物が出來るのである、是などは細菌などて出來るのでございます、剃刀が不潔なる爲に理髪所などて多く他人に感染ります、次に鵞口瘡と云ふものがある、是も矢張り口中に白いものが澤山出來るのであります、詰り植物性の寄生物が口中に出來るのであります。

外部から來て身體を刺激するのは大抵其位てありますが、身體の中で以て此細胞を刺激する原因があるそれは其人の體質、人種──色の白い歐羅巴人種或は亞米利加人種、色い黑い東洋人種、さう云ふやうな人種の差異があります、それから男女、年齡──年齡ても違ふ、詳しく御話しますれば大分ありますけれども、兎に角身體の外部から來て細胞を刺激して病氣を起すのと、身體の內部から病氣を起すと云ふことであります、さう云ふ風に病氣と云ふものは細胞の變化の爲に起る一の働きであります、それてありますから自分の身體に種々なる變化を起して來る、其變化を醫者の方では色々に分けます、大體摘んて御話しますれば身體に熱が出る、疼痛があつて難義をする、又は身體が痺れる、或は血が出る、頭の中にても或は腸管の中にても、胃の中にても血液が出る、或は人間の身體の中の此袋のやうなものがありまして、方々に液體が溜るのであります、小便とか水とか膽汁とか云ふものが溜つて、又其所に石が出來ると云ふやうなことがあります、それて其變化──例へば血が出るとか熱が出るとか石が出來るとか云ふことは、自分に解る、又自分に解らぬても他人に解るのである、此樣に色々な變化の起きまするのを醫者の方では之を症狀と云つて居ります、それを更に分けて官能的疾病、器質的疾病との二つ

にして居る、此官能的疾病と云ふのはヒステリー、神經衰弱、癲癇と云ふやうなもので症狀のみで器質の變化が現はれぬのであります、次に器質的疾病、是は細胞に刺戟を受けて一定の變化を器質に起すのであります、總て官能的の病氣の外は大抵は此器質的の病氣であります、是で病氣と云ふものがどう云ふものである、さうして醫者が此病氣をどう云ふ風に見て居るか、と云ふことが大體是で御了解であらうと思ひます、今日は是だけで御免を蒙むります

女子と衛生の關係に就て（於本會）

醫學士　鳥居春洋君述
佃速記事務所員速記

本日は婦人衛生會の御紹介に依りまして、斯く貴婦人令孃方に拜謁を得まするの光榮を得たるのみならず、此一壇高い所に上りまして、衛生上の御話を致しますことは深く喜こぶ所でございます、兎角衛生の御話と申しまするど、或る點に於きましては興味が少なうございまして、且つ不辯な私が御話をしまするので、或は御退屈を醸すやうなことでございませうが、暫時御忍び下さつて御清聽を煩はします

衛生と申しますと文字から申せば、單に生を衛ると申しまして、簡單な意味のやうであるが、社會の進運上非常な關係を有つて居ります、國の進運上に如何なる關係を有して居るか、又社會の發達、吾人人類の生育上如何なる關係を有して居るかと云ふことを研究して見ましたならば、是ほど廣く、又是ほど有要な事はなからうと思ひます、即ち之を大にすれば國家の隆盛興廢に係はらうと思ひます、何をか國家の隆盛興廢に係るかと申さうならば、抑〻一國の文明に赴きまする即ち諸事業の發達しまして、其國の繁華を來しますのは、何だと申しまするど、是は人民の勉强と云ふ事でございませう、人民の勉强は何から來ると云ふと、皆此事業に從事致しまする所の人民が健全でなければ決して此勉强と云ふこと

は出來なからうと思ひます、人民の健全なることは何から來るかと申しますと、それは人民が衞生と云ふことを能く心掛けて、常に之を服膺して、此健康を保ち、而して勉强をするのに差支のない所の身體も腦も有して居りまして、初めて此勉強と云ふことが出て來やうと思ひます、それのみならず皆様も御案内の通り此衞生の如何が國家の興廢に係はると申しますと、大層鳴滸がましいやうでありますが、近き例を取つて申しますれば、二百餘年前コロンブスが亞米利加を發見しました時には如何でしたらう、誠に未開な土地でありまして、銅色人種――其所の人民は開けて居りませぬで、銅色人種が大層群を爲して生活をして居りました、所で歐羅巴からコロンブスが初めて渡りまして、さうして歐羅巴に一の新らしい域を見出したと云ふことが發表されまして以來、或は珊瑚珠と云ふものは木の枝で草木の如く生じ、金銀は路傍に散つて居ると云ふやうな訛傳が傳はつた、或は訛傳でないかも知れない、金や銀が路に擲げては居ないが、容易に富を得ることが出來ると云ふ比喩であつたかも知れませぬですが、兎に角それから漸々歐羅巴から移住致しまして、即ち開けたる所の人民が行つて今日の亞米利加の隆盛を見るに至つたのである、此亞米利加の隆盛を極めまする時に土人は何うなつたかと申しますと、日を逐ふて土人の數が減じて行つた、一方には歐羅巴から移住する者も多くもございませうが、土人の數は日を逐つて段々減少して來ました、で此割で推して行つたならば數年にしてからに銅色人種は或は跡を絶ちはせぬかと云ふ様な狀況になつて居る。

又之を近い我國の例に取ると、北海道――御案内の通り北海道にはアイヌと云ふ一種の人種が土着して居りましてからに生活をして居ります、是が本土の人が段々移住をして行くと云ふと、此アイヌ人種が段々減つてからに、今ではモウ數える位しか居ない、是も終には此人種の跡を絶ちはせぬかと云ふやうな狀態である、是は諸種の點が異つて居りまして

或は此社會學者が人類學とか云ふやうな點からイロイロ研究をして、詰り社會の優勝劣敗で、勢力の有る者が無い者を睨み殺すのだと云ふやうなことを申しますが、それは生物の優勝劣敗と云ふことはございませう、即ち弱い者が強い者の餌になると云ふやうなことは禽獸の類にはありませうが人類相互は決して其者を取つて其肉を食すと云ふやうな事は不思議はないのですけれども、全く睨み殺すと云ふことはどうも受取れぬ學理だと思ふのでございます、能く考へて見ますれば、是は衛生上の優勝劣敗なのである、例へば庭園に草木を育てるにしても、雜草が其の木なり草花なりの傍らに生へまして、之を拔取らぬ時には、之が爲に折角蒔て置いて芽が生じて大切にする所の土壤、即ち滋養分を雜草の爲に吸收されましてからに、大切な立派な花を咲かせやうとか、或は立派な木に成長させやうとか云ふものが枯れて仕舞ひます、それと同樣な論で、是は取りも直さず衛生上の優勝劣敗である、此道理から推して行きますると、此人類の衛生上の優勝劣敗と云ふ事は即ち國の隆盛を來する上に就て非常なる關係を有つて居ると私は深く信ずるのでございます。

それから又此國の文明進歩を妨げますものは何であるかと云ふと、歴史を繰つて見ると戰爭とか或は天災、又は疾病——疫病の流行なのでございます、是は幸に此社會が段々文明に赴むくに從つて、衛生と云ふ事を深く注意を致しまして、今日は左程の害はございませぬが、是が昔の古い所の歴史、即ち衛生の開けぬ所の歴史を見ると、何の位此衛生の不備なるが爲に社會に害毒を流して居りまして、即ち社會の進歩を妨げて居りませうか、今日流行つて居ります所のペストです、日本には幸にして僅にして大流行を極めませぬが、之を二百五十年から三百年の昔、歐羅巴の疫病の流行の狀態を見ますると云ふと一の町は殆ど全く住民を殺し盡した、今日は彼方で何の位死んだ、明日は隣で幾人と云ふやうな譯で、實に何十萬、何百萬と云ふ死者病者を出してからに

工業商業其他各事業の發達を妨けた、即ち社會の進運に非常な妨害を爲したと云ふことは歴々として分つて居ります、否之を他の國の歴史に徴しませぬても、日本て御覽になつても何うてございませう、老人などの物語を聞きまするど、安政年間に東京、其時の江戸にコロリと云ふものが舞込んて非常な流行を極め、流石の八百八町の廣い江戸も日中人の影を見ない、偶々人が通るかと思ふと、棺桶の行列て此棺桶の行列の外には人がなかつた、先の兩國橋てす、之には一日を何千人と云ふ人が通行をする、往來頻繁の兩國橋も其當時は人の影を絶つたと云ふ位てあつたと云ふことてある、之に依て考へても、其當時如何に東京住民が此コロリの爲に惱まされたかと云ふことが察せられる、處がそれ以來虎拉剌も年々流行しまして、非常に人が惱まされたが、幸ひにして前の安政年間の如き慘状を極めなかつたと云ふのは何てございませう、即ち此衛生上の知識が發達しまして、虎拉剌の病源を究めて、此敵を防ぐには斯うしなければならぬと云ふ設備が出來たから幸に其後屢々流行しましても、前の樣な大流行は極めない、若し此敵が年々歳々進擊しまして、安政年間の如き猛威を逞ましうして、吾々人類を襲つたならば御同然に今日生存して居られなかつたかも知れぬのであります、是も衛生の學問が非常に社會の進運、國家の發達上關係を有する一なのてございます。

　それから我國は明治初年以來、王政復古されましてからに、諸事業、事々物々其舊慣を改めまして、實に此理化學の應用をしてからに社會の改良進步しましたることは屈指に遑ございませぬ、此前の日本の社會と今日と比較をしましたならば、恰も別の國に行つたやうな感を懷きます、其今日に於て尚ほ種々の傳染病、腸窒扶斯だとか赤痢だとか、或はペスト、實扶的利亞と云ふやうなものが年々歳々流行をしてからに此住民を惱ますのてある、是が防備には即ち上水の設備も必要てありませうし、又下水の設備もしなければならぬし、家屋の構造も衛生に適當

した建築をしなければならぬ。デ是は此頃の話でありますが、手前の友人が亞米利加へ行つて居りまして、手蔓を求めまして大統領と一夕對話することがあつた、其時に大統領に向つて、日本も段々御陰で日増に開けて來るから、どうぞ御暇があつたら一ツ漫遊がてら日本へ御出でなすつて下さいと斯う挨拶した、處が傍らに彼方の大學教授が居りまして、日本へ行くのはお止しなさいまし、誠に危險な土地である、日本の東京と云へば、英吉利の倫敦、佛蘭西の巴里、亞米利加の紐育とでも云ふやうな大變繁華な街て、さうして色々の設備が完全して居ると思へる、處がまだ下水の工事と云ふものが成立つて居ない、或る街を通るに臭氣鼻を衝いて、迚も鼻を掩はぬければ歩けぬやうな狀態だと云ふことを言つた、其所に列んで居る人は誰も此話を信ずる者がない、それは噓言だ、日本を誹毀する惡口だと言つたが、私の友人は其時に思はず身體に汗を掻いて答が出來なかつたと云ふやうなことがあつた。

此國家の文明と云ふことは、衞生と云ふことが何處でも基礎として進んで行くです、處が日本の文明は誠に假設の文明でございまして、丁度家で例へたならば、此衞生と云ふことは、家を建てまする所の土地の地形なのです、デ地形を念を入れてやらない時には立派な家を建つても忽ちにして其家は傾く、或は柱と壁の間に隙を生ずるとか、基礎を固くしないと云ふと或は顚覆したりするやうな虞が出來て來るのであります、國家と衞生と比較しますると云ふと此衞生と云ふことは國家發達上には恰も家を建てる所の地形であると思ひます、デ衞生を外にしたる文明の進歩と云ふものは、充分なる効果を持來すことは出來ない、即ち前に申しました通り種々の障碍を生ずると云ふとは皆此衞生の不完全から來るのでございます、衞生設備の完全不完全と云ふ事は、其文明を測る所の尺度、或は秤器であると言つて宜からうと思ひます。

デ今申上げたのは衞生の國家に及ぼす所の影響で

ございますが、之を又一家に取つては何うかと云ふと、人類の一番必要のものは衣食住である、家を造つて住居をしまするのは、風雨、暑寒を凌ぐ爲めであつて、又一方には盜賊であるとか其他家内の者に危害を加へる者を防ぐにありませうが、併し其大目的と云ふものは生を衞る、即ち自分の身體を守護するのが一番の目的だらうと思ひます、又家を建てるのも何だと言へば、即ち家の中に居住して居るのは家内の健全を保護するのに外ならぬと思ふ。それから食物はどうかと申しますと、食物も即ち自分の健康を保ち、さうして生育して行く所の目的を確にする營養肥料、或は其中には色々の酒だとか菓子だとか、煙草だとか色々嗜好物もございませうが、是も皆此衞生上に依て行かなければならぬ、今日御婦人方が家庭上に此衞生と云ふことを充分に御研究になりましたならば、此目的に齟齬するやうなことはなからうと思ひます、否充分に此衞生の効果を收められましたならば、有爲の子孫を御拵らへになることも出來ませうし、又家内安寧幸福を得まする所の基礎も此の御婦人方の衞生の思想から發達することが出來やうと思ひます、例へば衞生を目的として食物を拵へれば、チョットした話ですが、御惣菜を拵へますのにも、或は同じ金をお出しになつても、是は營養分が少ないとか、是は營養分が多いとか、又は是は消化物だとか不消化物だとか、是は腸を害するとか胃を害するとか云ふやうなことも自然分つて參りませうし、又それのみてはいけないのです、食べる物にも、甘いと云ふことゝ、見得と云ふことゝ一致しなければいかぬ、幾ら味が好くて滋養分に富んで居つても、一目嘔吐を催すやうな物を食しまするど、滋養にはなつても神經を惱めると云ふ嫌がありますから、決して滋養分のある食物ばかりが宜いと云ふ譯にはいきますまい、他の事も幾分か斟酌してやつたならば、大に此衞生の目的に適ふことゝ思ひます

又お子さんをお育てになりますのにも、決して此衞生の範圍を離れぬのであります、能く時々目擊し

ますのに、お子さん方は動もすると風邪を感きなさる、ソレ薄着をさしたから風邪を感くんだと言つて襦袢股引襯衣、其上に綿入や何か厚着をさせて、或は頸が出て居るからいかぬと云つて頸巻をなさると云ふやうなことは、是は通常チヨイトしたことでございますが、是は却つて其お子さん方の皮膚を軟弱にしまする本になつて、其召して居る時の間は家に入つて、其當座は宜うございますが、皮膚が弱くなると、急に温度が、變ると、チヨツト變つても其温度の變りにも感じるやうになる、又家に居て外へお出なさると、幾分か温度が違ひますから、チヨツト風があつても風邪に冒される、恰も此子供に厚着をさせるのは子供を不具にするやうな結果になつて來る、終に軟弱な身體に陥るのであります、軟弱に陥れば自然其子供の凡ての發達に非常なる害を及ぼすと云ふことは理の然らしむる所であります。凡て斯様なものでありますからして、少くも此家の母となつて、子供の家庭を作られ、或は臺所の調理を支配さるゝ所の方には成べく此衛生の學問を研究させたいと思ふのでございます。

それから着物もさうです、今お子さん方の御話て着物の範圍にチヨツト入りましたが、着物も其通り、先づ夜露、濕氣、寒温熱等をお凌ぎなさる所の御召物である、是は其國々に依て色々の風がありますてすが、先づ其目的を第一とされて、それから此見得、装飾と云ふ方の點に移らなければ決して完全な衛生と云ふことには當るまいと思ひます、是は衛生ばかりではございませぬ、古今の史、又は東西の例を見ても、國家の發達上第一に障害を來す所のものは、其國或は其土地の風俗習慣と云ふもので、是を又改めますのが一番難事なのでございます、御案内の通り支那では足の小さいのが美人だ、或は高貴な人だと云ふ習慣で、子供の時から成べく小さな靴を履かして、さうして成長した後には人の手に縋つてヤツと歩くやうな有様で、自立して歩くことが出來ない即ち支那では不具を以て美人とするやうな習慣が今

に至るまで殘つて居る、是は衛生上から行くと非常な害を受て居る。又今文明を誇つて居る所の西洋ても、幾分か此衛生に適せぬ風習が行はれて居ります御案内の通り西洋ては細腰と云つて、此腰の細いの身體の細いのを大層美人だとしてさうして誇るやうてある、是が爲めコルセットと云ふ金を以て腰を卷く、隨分子供の時から成べく身體を大きくせぬやうに、身體の周圍を細くするのが美人てあると云ふてとが風習てあつてからに、それが爲に諸臟を壓抑されまして、平常チャンと留つて居る所のものが彼方へ行つたり此方へ行つたり動くやうになつて、それが色々の病の本、所謂癥の種にもなるのてございます、それが爲に一種の日本に多く見ない所の病を醸すやうなことがございます、是も此習慣が一の害を爲して居ります、

デそれては日本には何うかと云ふに日本にもあります、御案内の通り此人の頭、即ち腦が宿つて居る所であつて、人類の神靈たる所以、事物を掌りまする一種の働きが腦に起る、それを保護するのに厚い骨を以て掩ふて、又其上に毛を生して置く、此毛を生して置くのは則ち外來の刺擊物を防ぐ爲てある、衣服ては寒とか暑とかに留まるが、是は科學的理學的の害物を防禦して居ります、それが爲めに骨と皮の上を毛を以て掩ふて居る、所が日本の前の習慣て見ると、野郎頭にするとか、或は全く剃つて仕舞つて坊主にするとか云ふ衛生上に反對の習慣がある、造物者が人の身體を造りますのに、一點の缺點もなく能く造つたものてある、例へば人が耳を二つ有つて眼が二つ鼻が一つ、口が一つ、是は何だと云ふと、成べく人は餘計に聽いて餘計に見、さうして物を判斷する所の資料にし、口は禍の門と云ふから、禍の門を二つ附けてはいかぬと云つて此口は一つしか附けぬのだと云ふことを或る學者が申しましたが、此頭に毛を置きますのも矢張注意の至つた點てあるのてございます。

それからモウ一つ申上げたいのは、日本ては岩田

帶と申しまして、御姙娠になると云ふと、五ケ月目にお祝をなすつて腹帶をなさる、是は唯今は產婆の方も開けて儀式的に留つて、從前のやうなことはありませぬが、前には非常に血が狂ふとか申しまして、前に申上げた西洋のコルセットと云ふやうな物よりモット甚く身體を縛つたものである、是は醫者の方から云ふと、身體を縛るどころぢやない、常と違ひ腹部に胎兒が宿つて居るのであるから、餘計に下の方に血液を循環さしてやつて、充分に發達をしなければならぬ、それを身體をグッと縛つて成たけ血が餘計に廻らぬやうに、狂ふと云つて縛つたものである、抑〻是は何う云ふ譯て斯う云ふ事が行はれたかと云ふと、或人に聞いた所が、是は少し例へますのも畏いことてありますか、御案内の通り神功皇后が三韓御征伐の時に御懷姙てあつて、鎧を召します時に丁度御腹が邪魔になる所から腹帶を遊ばした、それが例となつて即ち岩田帶となつて來たのてある先づ謂ひますれば御婦人の軍ごッこの異例と云ふことでございますが、先づ御姙娠中はそんなお遊はなさらぬ方が宜しうございませう、強ち他國人に比して日本人が小さいのは腹帶を固くしめた結果てはありますまいが、幾分か是が衞生上、發育上に關係をして居ることは申すまでもございませぬ、幸に今日になりましては儀式的に留まりまして、其弊害を認めることが少ないのでございます、

先づ今申上げたやうな譯てあつてからに、事々物〻衞生上の弊害と云ふものがあつて、之に打勝つことは大に難義てある、殊に風俗習慣と云ふ事を改めることは社會が進歩して行きます上に非常な牆壁を形つて居ります、此牆壁を破りますのは隨分難事てありますが、是は男子の力より御婦人方の力の方が大層効力があると思ふ、即ち家庭て見童を御養育なさる時に、其家母たる者が先入主となつて此風俗習慣を知らず識らずの間に改めて行つたならば必ず其の衞生に適する改良と云ふことは出來やうと考へます、又學校の設備も必要てあるが、學校て手の屆

かね所は家庭の御婦人方の知識が即ち其兒童に傳りまして社會の進運を助けることが非常な有益なことだらうと思はれます、

衛生の學と申しますと此の如く汎く、さうして此の如く日常事々物々目に觸るゝ所のものは皆衛生の範圍である、人の生存上には衛生と云ふ事は須臾も離るべからざるものであるのでございます。然るに社會て此衛生を如何なる程度に置くかと申しますと、實に此衛生の發達は誠に少ないのであります、隨分講釋だとか、落語だとか云ふやうな歎を盡しまする所には何日も滿場立錐の地もなき程の聽衆であるのに、何處の衛生の會に行きましても、其聽者は實に寥々たるものである、是れ畢竟此衛生を御話する吾々の不能不學の然らしむる所でございませうが、之を汎く社會に及ぼしますのが、目下日本に取りましての一大急務であらうと思ひます、今學校の課程を見まするのに、體育上には隨分念を入れられて、色々な體操、或は遠足、甚だしきに至つては或は勞に過ぎはせぬかと思ふ位に奬勵されて居ります、然るに此衛生の講義とか、講演とか云ふやうな事は未だ何處の學校でも行つて居ないのである、畫を描かせるとか、手工とか、又は音樂、何事も必要であります、音樂の如きは人の精神を高尙にし其他其効用を述べましたらば非常にありませうが、衛生學の如き日常等閑に附すべからざる學問を輕視することは、甚だ日本に取つて一大缺點かと思ふ處があるのでございます、少くも女子を教育しまする所の女子の學校には、其收容しまする生徒の如何に依りまして、衛生學の一講座を設けて充分に教育しましたならば充分其効果を收めることが出來やうと思ふ、唯今まて衛生の學も多くありますが、殊に御婦人方の御盡力になる所の大日本婦人衛生會の效は蓋し國家の幸福、即ち一國の安寧を保治する所の基礎、即ち此學問の原理を應用されて、益々此婦人會の趣旨を汎く日本國内に普及せしめられたならば、向後續々日本の英雄豪傑、精神の堅固なる、又は思慮の深い人を

造り出して、歐米を凌駕しまする所の文明の域に進むことは必らず難いことではなからうと思ひます。願くばどうぞ此會に御盡力の皆様は色々艱難な事もございませうが、萬難を排して益々進んで吾々國民の幸福を增進せられんことを希望の至りに堪へませぬ、甚だ詰らぬ御話を致しましたが、是で御免を蒙むります

（終）



大家談叢

醫學博士　瀨川昌耆君

▲牛乳消毒器　博士は又非常に便利なる消毒器を案出されました今之を略記致しましやうソレハ一般の消毒器ですと七輪とか火鉢とかへ載せ其火氣を受けて圓筒形の器の湯が沸騰し湯の中に入れてある壜の牛乳も從ッて殺菌が出來ると云ふ裝置てあるが博士の消毒器は七輪や火鉢へ載せる手數もかゝらず直ぐに火が入れられる即ち下方に二ツの口がありまして火の起り可いように內部に鐵弓が渡ッて居ります殊に煙突迄附いて居るから一旦火を入れゝば容易に消へることはありません其消毒器內部の裝置と云ふは圓筒形の器の上部には牛乳の壜を入れ湯が沸く樣になり居る牛乳の壜は轉倒せぬように一本づゝ圓く壜の大さにくりぬいて挿し込むようになつて居りますソコで愈々消毒に取り懸るとき圓筒形の器へ被せる蓋があります其蓋は取り放さぬ樣にせねばなりません又殺菌し畢ッた圓筒內の湯は無駄に冷やさぬ樣に其器の右側に捩が付いてありますから之れをひねれば其湯は放出しまして洗濯にでも洗ひ流し用にでも供することの出來る便利もあるのです消毒壜の裝置てすが一合入の壜の外面には目もりがして內容の分量を示すやうに出來たのもあります又蓋にはいろ〳〵ありますが壜の口は金屬製のパテントがあつて內部には夫れと同じ大さの圓るゴム板が挿み込んであつ

て蓋はシッカリ取れぬ様になつて居ります尚パテントの中央に凹い小な孔の穿いてあることは尤も必要なことである云々

次に牛乳を此消毒器で殺菌する其順序幷に取扱方のお咄しに移りませう生後小児の時日に應じ夫々薄め方のありますことは前に表を作つて申上げたから定めしお記憶でありませう、て毎朝配達された牛乳は保育の時期に應じた薄め方になし且つ一回の授乳量は親々の經驗上大概見計いが付いて居りませうから薄めた牛乳一回分を一本の壜に移し、外の壜へも此通りにしいづれも十分間消毒器で消毒し終つたら直に壜の口はパテントで緊乎蓋をなし晝間授乳の分丈を朝の間に拵へておく、かういふ安排に處置した牛乳は壜の蓋さへ取らなければ土用中でも一日は大丈夫變敗せずとされば是より追々暑氣に際し牛乳は容易に變敗し安きもの故右消毒器及パテントの瓶の口は大に賞用すべきものなり

▲哺乳器は不賛成　消毒壜の牛乳が外部の空氣に觸れゝば黴菌は遠慮なく再び消毒した牛乳に附着します、夫れ故授乳する迄壜は密閉した儘で置き授乳する時にも成る可くは消毒壜へ直ぐ玻璃管を入れ、護謨製の乳首を付けて飲ませるやうになさい前にも申した通り私の實驗して居る消毒壜の口はパテントで製造て居るし其の内側には同じ大さの丸い護謨板が挿込んである、故に授乳する時は其の丸い護謨板をパテントの内側から取去ると、パテントの中央に丁度玻璃管の挿入る位の大さの孔があるから、其の穴へ玻璃管を通し、護謨製の乳首を付けて直ぐに消毒壜の儘飲ませる趣向で之れが最も安全な策であります、て消毒壜で直ぐに飲ませる者は、哺乳器へ移し換へてから授乳するが此の習慣は親達が未だに多く實行されるけれど之れは何うか止めて貰ひたい、爾うして今お咄し致した通り消毒壜へ直接に乳房の裝置をして飲ませるやう改良を望むのであります。

▲壜其他の清潔法　幾度も繰返して云ふやうですが幾ら消毒した牛乳でも、飲殘つたら其儘保存て置か

ず、親が飲んで仕舞うなり、或は他の人が直ぐ飲んで仕舞うか、左もなくば取捨て仕舞うやうになさい消毒した牛乳でも其壜の栓を取つて空氣に觸れゝば黴菌の附加つた毒になる牛乳となつて仕舞ひます黴菌の繁殖は牛乳程速いものは無いのです、先づ飲せるには以上の仕方で飲せ、いよ〳〵飲せ畢つたら今度は壜の掃除や、其の附屬物なる玻璃管や吸口の掃除を嚴重にしなければなりません、一度位は掃除を怠つても可からう、一々掃除するのは面倒臭い抔と思ふと夫れこそ飛んだ失策を醸す基になります、壜の掃除は左程仕惡いものではない玻璃管も其通であるが困るのは護謨製の乳房即ち吸口です、此内部へは牛乳の滓が溜り易く、充分清潔に掃除が行屆いた積りでも牛乳粕が殘つて居るもの、斯くの如く手入が屆かぬと前にも申した小兒の鵞口瘡を醸し、圖らぬ不幸を招くに至る事は往々實見する處であります。

▲熱湯を通すべし　然らば消毒壜其他の附屬物は如何なる方法を以つて清潔にしたら宜らうと云ふに誰にも出來る簡便な方法は熱湯で洗ふのであります、硼酸とか重曹を水に解溶したので洗ふと可いが却つて其んな藥品を用ゐると掃除を怠る基になりますから熱湯で洗ふ事に心得て置かれたい、又吸口は護謨製取ぐるりと引繰返して内部を丁寧に洗う事が、出來るから、斯ういふ鹽梅にして清潔にお洗いなさい少し手慣ると旨く裏が引繰返せます、何うか牛乳保育者は、大切なる殺菌と共に壜、玻璃管、吸口等の清潔を保つことを怠たらぬ樣に願いたい。

牛乳と母親の誤解

▲牛乳保育と迷信　牛乳で保育した母親の方から斯んな御質問があります『母乳が不足の爲め一人の娘を牛乳で保育てました處顏色が黑くつてお恥かしい程です、他の方から伺ひますに牛乳で育てると女の子は色が黑くなるさうですが、其の爲でせうか』と云ふお咄しを度々耳に致しますが牛乳で育てたからとて決して色が黑くなると云ふ道理は御座いませんから、其んな取越し苦勞はなさらぬやうに願ひた

い、デ色の黒くなるよりも生後一年前後になつて食物を與ふる方法を講ぜず牛乳ばかりて保育すると却つて皮膚は蒼白色を呈す事は前に述べた通り故、之れは既に御承知てありませう

▲冷たい牛乳　夫れから尚斯んなお尋ねがあります「牛乳消毒器て晝間の分丈牛乳を消毒して置いたら冷却て仕舞うが飮ませる時に其儘與へたら小兒に冷たい牛乳を飮せるやうになります、之れは別に差支へはありますまいが幾度も温めて消毒しては却つて乳質を變化させるとの事てすが」と、成程冷い牛乳を與るのは宜しくないのて、冬の寒い日など猶更てある故に斯いふ場合には消毒壜の儘て栓も密閉して置き、人乳の温度位に温めて、夫れから後に授乳するやうになさい此位の程度に温めたとて牛乳の成分を變ずる事はありません（私の實驗した牛乳消毒器は賣品にありますからお望みの方には製造所をお知らせ致しませう、往復はがきて御照會なさい）牛乳保育は尤も大切なことゝて母乳て育てるより非常な手數を要する事は何人も御承知てあらうが分けても牛乳の溶め方や殺菌及び消毒壜其他附屬物の玻璃管だの乳首の清潔を保つことなど周密なる注意を怠つてはなりません

煉　乳

▲日本にも煉乳の良品あり　牛乳に次いての人工營養法は即ち煉乳をもつて保育するのてあります、一體日本ては牛乳搾取業ても餘り大仕懸けに規模の大きいのが誠に少ない、故に西洋と比較すると割合に日本の牛乳は價が高いが夫れと同じ事て煉乳の製造者は日本にも大分あるが孰れも規模が大きいとは言はれぬ、日本の煉乳業にして十年前に稍盛んとなりし者て今日迄繼續して居る者は誠に尠ない、何時の間にか立消えになつて仕舞ふ、之れは實に遺憾なことゝてす一ヶ年煉乳の輸入高を調べると百萬圓の多きに達するとの事てあります、併し日本製の煉乳と云へど乳質は決して輸入品に劣る譯てはない、試驗して見るとナカ〳〵上等な品があ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて、敢て外國製の鷲印煉乳抔に劣らぬと信じて居るのもあるが、詰りは小規模のため微々として振はず、其の煉乳の名さへまだ世人に知らぬ間に何時か立消えになつて仕舞ふから仕方がない、私は出來得る限りは日本製の煉乳をもつて保育するやうにしたいと思ふのてす

煉乳保育

▲內國製の煉乳　外國製てはストル氏の鷲印煉乳は日本てもなか〱好評であるが現今ては我國にも此鷲印に劣らぬ良好の煉乳がある、今東京衛生試驗所て分析した優等品と認めらるゝものは兎印コンデンスミルク、鳳凰印煉乳、天狗印ミルクなどて是等は內國製ても優等の煉乳で鷲印煉乳と優劣なき故出來得る事なら日本製の品を用ゐるやうに仕たいものてす(分析表略)

▲煉乳の薄め方　夫れから近來は輸入品てクリームと稱し砂糖を入れぬ濃厚なる牛乳がある、是れも無論小兒に飮ませて惡い事はないが煉乳よりも腐敗し易いから此邊を餘程注意しなければなるまい、煉乳の薄め方は初生兒には十七八倍に薄めてお與へなさい、即ち匙一杯の煉乳に熱湯を同じ匙にて十七八杯て薄めれば夫れて可いのてす、生後十ヶ月頃になつたら凡七八倍に薄めて與へるやうになさい、併し小兒が少しても胃腸を傷なつて居るは煉乳ては消化に堪えないのてす、斯る際には安全なる策として矢張生乳にお改めなさい

▲四五日間の旅行の時　夏の熱い盛りは牛乳保育の小兒を伴ひ四五日間の旅行を試みらるゝ場合には煉乳を用ゐて一向差支へないのてす、斯く牛乳の腐敗し易い夏の頃田舍へ往き善良なる牛乳を得るに苦しむ時は誠に煉乳なら安全て腐敗の憂ひも尠ないのですから御注意迄に申添えます

哺乳兒の食物

▲玉子のお粥　哺乳兒の食物は喰べ習はせと夫れから適當なる食物を選ぶことに充分の注意を仕て貰ひたいのてす、先づ哺乳兒は生後七八ヶ月の頃より澱

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

粉質の食物を與へる事になるのですが、前にもお咄し仕た通り乳を飮んでる間に食物を喰べならはせるのであるから一寸之れは面倒な事で小兒によつては此時代に乳汁の外食物を與へても嫌つて喰べないものがある。併し斯ういふ場合には母親より保育者は一度ならず幾度でも小兒の喰ならう迄は面倒の、手數のと思はずに食物を與へるやうになさい、先づ最初に與へる食物としては玉子の黄身を粥に混和したものであるが、此の拵へ方を次にお咄し致さう、

食物の拵へ方

▲拵へ方と喰べさせ方　哺乳兒に食物を喰べ習はせる時は何ういふものを與へたら、少しも障害にならず、營養も全たうし得るかと云ふに粥へ玉子の黄身を入れたものをお勸めする事は前に述べた通りである、ソコで其の拵へ方ですが方法が惡いと稍もすれば消化を害する故、粥へ黄身を入れた斗りで夫れて可いと早や呑込みでは困ります、粥と云つても其の濃さ薄さに程度のあることとて、哺乳兒に喰べならはせるには飯の粒などは煮えくづれて、薄すりした箸にも掛らぬ位のものに拵へなければならぬ、粥とは云ふもの丶詰り重湯同樣に拵へるので、餘り熱くなく丁度喰べ加減に温まつて居る中へ生玉子の黄身丈落して、グル／＼と能く攪廻し、黄身が少しも凝結らずに悉皆重湯と混交つた處で哺乳兒に與へて御覧なさい、黄身が凝結つては不消化になります決して凝結らせてはなりません、扨斯ういふ食物をソロソロ喰ならはせなくてはならぬ、生後七八ケ月の時期には、哺乳兒の方でも大抵食物を要求する時代に向つて居るから、授乳する間を見計らひ俗に云ふだますやうにして與へれば多くは喜んで是れを喰べるものです、併し小兒に依ると嫌つて喰べないのもあるが、二度や三度試つて見て何うも喰べぬから廢さうと云ふやうでは、何時迄も乳汁で計り育てる樣になり、食物を喰べならはせる機會がなく離乳の時機を誤ります、夫れ故最初の内は幾度試つて見て嫌がつても根氣よく喰べさせて御覧なさい、何時の間にか

小兒の方でも少し宛喰べ習つて保育者の丹精は必ず顯はれるものです

▲失敗の實例　重湯のやうな粥へ生玉子を混ぜた食物は、先づ割合に消化も良く且つ小兒に相應した滋養の力もあるので、喰べならはせの初めには尤も適當して居るのです、私の懇意な母親ですが其のお子樣がソロ〳〵食物を與へなければならぬ時期に向つた故適當な食物はとお尋ねになつたから今お咄し仕た重湯へ生玉子の黄身丈混ぜた食物の拵へ方から喰させ方を能く說明致しました、然る處此のお方はお宅へ歸られて此通りの食物をお拵へになるとき不圖考へられたさうです「何うも玉子を喰べると黄身は不消化氣味があつて噫に出て困るから小兒に喰べさせても屹度消化が惡からう、同じ玉子だもの、寧そ白身の方を混ぜて見やうと、夫れから熱い重湯の中へ白身を混ぜてドロ〳〵固形つた、處を與へたさうです、其後間もなく其のお方がお出てになり、黄身の代りに白身にしたとのお咄しでした、私は驚いて夫れをお止め申し「左んな素人考へを出されては困る一體玉子は白身も黄身も餘り消化の良いものでは無い比較的何地かと云へば消化の良くない食物の部に屬するものであるから、哺乳兒時代には餘り必要の無い白身を取去つて黄身計りを混ぜる事をお勸めしたのです、殊に黄身の中には小兒の營養發育に尤も大切なる鐵質の成分が多いから、夫れや之れやの關係から黄身を混ぜるやうにと申上げたのですものを、飛んでも無いお考へ違ひではありませんか」と說明致したら其のお方も素人考への誤つたことを後悔なさいました、斯ういふ誤解が往々ありますから必ずお心得違ひの無いやうに願ひたい云々

▲神經衰弱の豫防法

此篇は狩野病院長狩野謙吾氏談片の抄錄

▲(三)單純に營養損害を起す者　是には食物不十分に因るのと食物の消化吸收を害するものとあるが食物不十分の方は別に申上るにも及ばないから食物の

消化吸收を害する方を述べます、食物の消化吸收を務める重なる機關は齒、唾液、胃、腸であるが其中

▲(一)齒は　食物を細かに碎くのが役目て此齒が弱いとか缺けて居るとかすると胃も腸も健全で居られないから齒はなか／＼大切なものであります、それから

▲(二)唾液　は食物を濕潤して嚥下に都合のよいものにするが作用の一、水に溶解る食物なら口中て溶解のが作用の二、食物中にある澱粉質を糖化のが作用の三、

▲(三)胃は　食物中にある蛋白質を消化するのが重なる役目て外に其他の食物成分(澱粉質護謨質を除き)をも多少溶解したり消化したりする作用をも營んて居ります。

▲(四)腸は　胃て消化した食物を送られ更に夫を消化して血の管に送るに都合のよい樣にこしらへる所で此腸には又膵臟から出る膵液と肝臟から出る膽汁と云ふものがあります、膵液は唾液同樣澱粉質を糖化が其力は唾液より遙に强い、外に膵液は蛋白質を消化したり、脂肪類を分解して恰度石鹼水の樣にしたりする作用を持つて居ります、膽汁とは嘔吐た揚句に出る黃色な苦いもので是には妙な作用があります、一體脂肪質類は紙ても布ても濾過れない性質のものであるのは御承知の通りて腸からも滲透は六ケ敷い筈であるが幸にも腸の管には此膽汁が塗つて居るので脂肪質が容易に體內に循環する事が出來る、膽汁は又澱粉質を消化したり大便を軟にしたりする力もあります、

斯樣に種々の作用が相待て食物を消化し身體內に吸收するものであるが併し胃腸中に何時でも消化液があるのではなく多くは入用に際して入用な丈を分泌すると定めて置くので例令ば藥物を見ると神經が甘さうだと感じた許りて唾液が分泌を始め皮を剝て口に運ぶ時は早や口中に唾液が澤山、それが胃に達する時は胃液は云ふ迄もない事腸の方ても膵液は大急ぎて御迎へをする次第、獨り消化液の分泌する許

りてなく食物が胃に達すれば十五分後には胃は運動を始め其食物が胃を通り過て腸に達すると腸は又直に運動を始める、それであるから三度の食事の外度々間食をする人の腸胃は消化液の灌ぎ方や蠕動運動がなか〳〵忙はしくて睡眠して居る時の外休む暇がない唯此際獨り喜んで居るのは中にある舌許り。

▲(五)舌に就ての注意　此處で一寸味神經の事を述ます、此味神經の役目はなかなか重大で若し味神經を持なかつたならば、一日三度の食事も賴まれ仕事同樣て張合がなく三度が一度にも減つて自然營養を惡くする事と思はれます、處が幸ひに舌の上にある味神經の御陰て甘い鹹い酸い苦いの四つを味見する事が出來、一には神經の慰さみとなり二には三度の食事に勵みが付いて營養を保つていかれます處が口中や胃腸に病氣を起したり熱病に罹つたりすると此神經の作用が鈍くなりまして自然に矢鱈に使つてはいけないと命令された樣な結果になるから大層都合がよくあります、然しながら胃病の初めなどには大分食が進んで何時も喰ひたいのに味神經迄が平常よりも鋭く甘味を感ずるから胃と共同して矢鱈喰をするので遂に胃の腑が疲れて消化が出來なくなり夫れにも拘はらず舌は得意の幅をきかせるから遂には慢性胃カタルとなり詰込められたものは消化し樣がしまいがおかまひなしに腸に送り込み今度は又腸もカタルを起して仕舞ふ、斯樣な譯であるから愼みのない舌を持ちますと胃腸を弱くする原因になり胃腸を弱くすると營養不良になつて色々な病に犯される影響が參りますから注意しなくてはなりませぬ、だが餘り舌を抑へ過て舌の望みを容れないのも亦宜しくない、假令ば何時でも同じ者のみを味はせて許り置くと遂には甘くも辛くもなくなつて直接には神經の慰みを減じ間接には食物需用の配合を誤り營養を害します、即ち鹹味の者丈を食せば鹽類過剩となつて蛋白質を減ずる事になり肉食許して野菜を喰はねと血液の成分に故障を起して病氣を招きます、左樣な次第であるから其邊よく斟酌して舌に注意しなく

てはなりませぬ。

▲(六)胃腸病から來る神經の災難　胃腸共に慢性カタルを起しては食物を消化する力も消化したものを體内に輸送する力も減じ平常と同一分量の食事をしても眞に滋養になる分量は二分の一も三分の一もなくなり其上胃腸は平常の三倍も四倍も迷惑するから身體は追々と羸瘦て血の氣は不足し光澤がなくなり從つて行先が心配で神經を惱め夫れに時々は腸胃の疼痛も起つて直接にも亦神經を惱めます、即ち腸胃病者の神經は三重の災難を被る次第、それは

(一)滋養物の分配不足で弱り

(二)弱つた場合に常より働かねばならず

(三)直接に疼痛で苦められる

右の次第だから自然神經が衰弱します

▲(七)胃腸病と神經衰弱　明治三十五年一月から同三十七年十二月迄滿三年間私の病院に參りました慢性胃腸病に原因した神經衰弱患者を調て見ましたが總計千七百五十二人の中三百十一人ありました

但し是は病人の申立を記載したので或は胃腸病が原因でないのもあるかも知れぬから確な統計とは言はれないが兎も角胃腸病から起る神經衰弱がなか〳〵多いと云ふ事だけは是て知られる、一體神經衰弱の原因と云ふものは確に是と云ふことがなか〳〵六ケ敷く一人の患者でも原因だと認むべき事柄が三つも四つもある樣な譯で其調べは隨分困難なもので御座います、一體神經衰弱には胃腸症狀が附ものであれば神經衰弱の爲に胃腸の惡いのでも神經衰弱には氣が附かず唯胃腸症と誤信することも多く此見分を附けるのが、治療上極大事であつて醫者でも間違易いものであります。

▲(四)消耗に因り營養損害を起すもの　人の身體には種々な滋養分が入用であるが中にも蛋白質は一番大事、之を貨幣に譬へると金貨の樣なもので此蛋白質さへ十分であれば外のものが不足でも取替が自由にきくから出來る限り此蛋白質を使はない樣に工夫して置くのが健康を維持するに必要な事で御座い

ます、熱病特に大熱の傳染病や肺結核などに罹ると補助貨幣の銀貨や銅貨に當る含水炭素とか脂肪とか云ふ類は直に使はれてなくなり搗て加へて病氣は亂暴を極めて身體の奥に貯へてある大事な蛋白質迄を遠慮なく引出して使つて仕舞ふので結局支拂收入の平均が保たなくなると同樣で幾位食物を吟味して蛋白質を多量に輸入したところで足りたものでなく僅かの日數で身體が痩る體量が減る色光澤がわるくなると云ふ樣に身體が衰弱して仕舞ふ特に平常蛋白質の不足な身體の人は一層弱り方が早くて劇しい即ち平常粗食して含水炭素や肪脂で身體を維持して來た人などであると早く弱り從つて又死亡數も多くあります、斯樣な工合に大事な滋養分を病氣と云ふ亂暴者に無駄使されて弱るのを消耗と云ふのであるが今消耗を起す病氣中神經衰弱の原因となるもの及び夫れに附隨した事柄を十箇條程御話しします。

▲(一)肺結核　是には重いのと輕いのとありまして重いのは身體がひどく痩て其日の午後三時頃になると體溫が高く咳嗽痰、盜汗等に苦められ食が進まず神經が衰弱して參ります、獨り重いの許り神經が衰弱するのではなく輕いのでも矢張衰弱するのが少くない、是れ何の爲かと云ふにモー己も肺病になつたか何れ命はあるまい扨て〳〵悲しい次第と早くも恐怖心を起し夫れが病氣の手傳をして神經を衰弱させるので甚だしきは肺結核と診斷された許りで自殺する了見違ひの人もあるなど兎角肺結核患者には斯樣な類の誤謬が附き物となつて居るが之れを取除くのが一般衞生の急務で夫れが又神經衰弱を豫防する一法にもなります。

▲(二)肺結核の根治　なる程肺結核はいやな病氣で死亡數も多いに相違ないが然し肺結核全體の數が病氣中で一番多いのであるから從つて死亡數も亦多い譯なので絶對に全治しないと限つたものでない許りか全治するのも多い、唯其統計になると全治の方が不確で死亡の方が確であるから一概に此病氣は全治しないもの死するものと考がへ込んで、何故全治

統計が六ヶ敷いかと云ふに第一には死ぬ位重い肺結核であれば素人でも大概見分が付くが全治する方であると重くならない中に全治して健康になるから素人は勿論醫者でさへ肺結核であつたか何であつたか見分は六ヶ敷い、第二には肺結核はどの位全治して居るかを確實に調査するには勢ひ死人全部を殘らず解剖して見ねばならぬ、然し是は實際出來ぬ問題、けれども幾萬の死者中一人と云ふ割合位の僅かな解剖てさへ活て居る間は肺病などゝは話にも聞かなかつた健康の人でありながら死ぬ二十年も三十年も前立派な肺結核に罹ッて全治して居る痕跡の明瞭なのが隨分あるから學者間では肺結核は死ぬより全治する者が多いとなつて居る、右述べた樣な次第で全治統計はなかく困難で死亡統計の樣に確でないが兎に角肺結核は全治するものと定めてもよろしい。云々

●齒を白くする誤解と病人の齒

（志村齒科醫院長の談片）

齒並の美事な齒の白いのは、相貌の上に少なからぬ艶麗を添えるので婦人は亂齒を拔て金着せの義齒をなし或は齒を白く見せん爲め無理なる磨き方などをするが之れに就て著しき欠點ありとて左の如く語れりと。

▲愚なる見得者　齒並を能く見せる爲め無理に亂齒を拔き去すつてソコへ黄金の義齒をする、之れは未だしも深く咎むべき事ではないが、金齒と云へば兎角婦人は之れを一種美觀を添える如くに誤信し大丈夫な健康な齒を無理に拔て黄金の義齒をします之は實に惡い流行ですが、未だ夫れよりも恐ろしいのは淺草公園杯へ行つて見ると金の入齒だと云つて、金色の金屬を細工した一個の六七錢位の入齒を賣つて居ます、之れを前齒へ挾んで置くと、一寸黄金の義齒をしたやうに見えますが之れは非常に齒の琺瑯質を害するので、金屬の入齒と天然の齒との間には必

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ず空隙ある故ソコへ食物の殘粕が貯ります、食物の殘粕は態々ブラシ楊枝をもつて歯磨粉を附け取去るものを、詰らぬ考へから態牙々を歯腐蝕せしむるのは飛んでもない誤解ではありませんか、世間には隨分斯んな無茶な見得者がありますが歯を腐蝕せさる誘因物となる事を思つたら五六錢の玩具の入歯などは假りにも挾てはなりません

▲恐るべき歯藥　歯を白くする藥なりとて大道等にて一種の液藥を賣つて居る、私の知己の妹は之れを求めて頻りに歯を磨きしに見る〳〵歯は眞白くなつたが尚夫れを繼續して居たので數日の後に至り歯は前と反對に黑み勝となりて少しく疼痛さへ感じたと云ふので不審を起し其の液藥を持つて歯の診術を乞ひに來ました見ると其の藥は稀鹽酸を水に加へたもので歯には大毒な藥です、之を使用すれば最初は覿面に歯を白くすれば素より稀鹽酸の事なれば數回使用すれば琺瑯質を腐蝕し光澤を失ひ遂に骨質を顯はし役に立たぬ歯にして仕舞ふ此の婦人は　幸　に琺瑯質の滑澤を失ひしに心付き此の液藥を止めたから良かつたが世間には斯んな曖昧な、歯の毒になる藥に誤られて居る實例は澤山ある故大に注意しなければありますまい

▲病人の歯の清潔法　夫れから病人の歯ですが之を注意する醫師の稀なるは慨はしき次第です、病人の口腔内には却つて健康なる人よりも黴菌の繁殖多きもの故歯磨粉を用ひブラシ楊枝にて歯を清潔にする事は大切なことです、然るに病人と云へば腰の立たぬ重症患者でもあらざるに歯の清潔を欠き含嗽を屢〳〵する者はないと云つてもよい、若し病人が健康者の如くに歯を清潔にしたら或は病氣も速やかなる快復の好結果を顯はすに近いと信じます

●肩の凝り腰の痛みの根本療法

（大澤謙二博士の談片）

報知新聞記者は嘗て「肩の凝る」ことに就いて大澤

博士に質問されしに博士曰く其の後思ひ出す毎に考えても見、調べても見たがなか〳〵分らなかつたが第一西洋の醫學者尠く共獨乙の醫者の書物には「肩が凝る」とか「腰が痛む」とか云ふ文字がないシテ見ると之或は我が日本人特有の病症であるやも知れないといふ推測から、折に觸れて段々と注意して見た結果坐居る事も其の原因の一つではあるまいかといふ想像が浮んで來た、我等が斯様して坐居つて居るのは、坐居つて居る膝から上の所謂上身の體重を支える重點が坐線即ち坐骨結節に在るからである、然るに若し其の上身の重點が坐線から前方に落ちると身體も一所に前に內ち俯せになるから其れを俯坐と云ひ、重點が後方に落ちると身體も一所に後に仰向けとなるから其れを仰坐と云ふが斯の仰坐俯坐の間に例の「肩の凝り」「腰の痛み」が始まつて來る、試みに前にも後にも倒れない様に屹度して居て御覧なさい、習慣であるから一寸ばかりは何とも思はないが、長くなると頸筋がヅク〳〵痛んで來る、此の

際に頸の筋がどれ丈け疲れるか分らない、其處で長坐になると我れ知らず、兩手を膝に身體を前にかがめて身重を支えることになる、腰の方も其の通りで後に仰向けにならない様にしようとしてどれ丈け脊髓に力を入れて居るか分らないつまる處椅子もなくテーブルもなく、ソシテ坐居つて居るから年取るに從つて肩が凝つたり腰が痛んだりすることになる、體重を椅子に支えてテーブルに向つて居さいすれば前に內ち俯せにならうと後に仰向けにならふと、其れが爲め特別の働きを頸の筋や脊髓などに掛ける必要が起つて來ないから、從つて病氣の外に肩の凝りも腰の痛みも起る筈がなからふてはないか、ソコデ既に起つて仕舞つた肩の凝りや腰の痛みを癒すとは後日の論として、此等を根本的に起らないやうにするには先づ家屋の改良と座臥の改良から着手せずばなるまい、併し老生は大體に於いて在來の日本家屋を歡迎する方であるが、座居ることを止めにして椅子テーブルに改めるとすれば日光通氣の關係上廂を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

除いたり、椽側などにも少々取捨をせぬと好けない即ち座合つて居る時と同樣の光線と通氣とを椅子に倚りテーブルに向つた場合に受けることが出來れば其れてよろしいのだ、其れから座居る害はまだ〳〵ある、日本人は脚は短く且つ曲つて居る、立つて見ると十人が九人迄脚と脚との間は、西洋人の樣にピツタリと食つ着かない、いつかもお話したと思ふが西洋人は大曲點を中心として上身は百中四十八、下體即ち脚は五十二の割合になつて居るが、日本人は上も下も五分々々て、兎もすると女などには脚の方が却て短かいのもある、人間の容姿から云つても脚の方の長いのは美しく見へる、活きた美人は猶ほ更らのこと、畫でも彫刻でも美人は必ず下部が長くなつて居る、注意して見玉へ、觀音などは大體この美體が備はつてあるから……、要するに椅子テーブルは單に「肩の凝り腰の痛み」の根本療法たるばかりてなく、一面日本の美人をしてます〳〵美人たらしむる所謂美人改良の上からしても頗る必要てあらふと思はれる云々

●人間體力の盛衰

左の記事は文學博士松本亦太郎氏神經病學會總會に於て演說せられし大要なり

▲體力の數學的計算　人間の體力練習は凡そ奈何なる點まで効果を表はす可きものなるかを種々の方法によりて試驗し其結果も數學的に試み見たり其方法は素より種々あるも握力計にて腕力を試みるのが早解りにて鍛冶屋、筆耕者、繪師其他すべて右腕を能く使ふ人の握力の强さとは誰しも知れる所にて

▲腕力の增加　する割合は素より練習の奈何に因るものなるが右の手は普通二日目には二割六分、三日目に一割七分、四日目には一割三分、五日目には零割七分、六日目にも零割七分にて左の手を練習して見ると二日目には二割、三日目には一割八分四日目

には一割四分、五日目には零割五分六日目には零割三分と云ふ割合に其力を增すものなり

▲腕力の增減　然れども腕力は無限に增加する譯には行かず七日目頃からは增加の度合甚だ少く而も却つて割合が減ずるものさへあり且又增加法にも上に言へる如く進んでは減じ減じては進み一進一退定まらざるものなり

▲人間の三時代　第一は壯年時代第二は中年時代第三は老衰期にて三期とも第一日より第六日目に至る其增進方に差異あり尤も各個人の體質によりて少年或は壯年と云へども中年期及び老衰期の有樣が來り中年及び老年と雖も壯年時代の增進方を示す者少からず

▲就學中の變遷　以上の事實は單に體力計りでなく各個人の精神力の上にも同樣の關係を見はすものなり此は學生に就て最も見得べし一年二年三年の間は段々進歩する丈四年五年とならば進歩を見ず高等學校時代には學蹟優等を以て稱せられたる者も大學に入りて成蹟更に上らざるあり又一度中止せし進歩が後年に到りて更に增進するものあり「小供の中は實に發明てあッたが大人になッたらカラ駄目だとか、小供の折は鹿馬のやうてあつたが大きくなつたら丸るて生れ變つたやうだ」とは能く耳にする所てある

▲人間一代の盛衰　上記の如く凡て世の中の人々に就て觀察しても此の事實の例證は太だ少からず伊藤大隈諸老人の如きは第一種の人と見えて何處までも進歩の實を示せるが中途よりして世間より忘却されたり大いに世に巾を利かした人が老年に至らざるに一向に役に立たずなりたりする例は洵に少からず世と共に推移して第一種の精神力を增進し乃至持續する人は古來太だ稀れなり之を要するに

▲一國の興亡盛衰　も亦全く同じ理にて幾代も引きつゞきて祖先傳來の家名を持續する者少きと一般着く々と進歩する國もあれば進歩を中絶する國もあり四十年間に驚く可き長足の進歩をなしたる我が大日本帝國希くはアングロサキソンの夫れの如くなるを

望むも埃及、印度若くは支那の如くはなり度くないものなり云々

●春先の衛生

（醫學博士遠山椿吉氏談片）

▲氣候の變化　冬は身體が縮まつて居るが之れからポカ〳〵暖くなるにつけ漸く緩みが來だるくもなれば眠むくもなる、今が其の氣候の變り目であるから一番病氣の出易い時で嚴寒を辛うじて持ち越したやうな大病人は大抵は絶命する時である、併し春は必ず人の健康に惡い時とてはないが唯氣候の變化から所謂逆上を起し卒中肺結核など、出血性の病氣が多いから此等の病ある人は能々注意しなければならぬ

▲飲食物の腐敗　は今後最も注意しなければならぬ昨年のラムネや宵越の牛乳等ウカと手にしてはならぬ菓子其他のものには防腐の爲め彼の有害なる撒里矢爾酸を多量に入れたものが此頃は隨分に多い撒里矢爾酸は辛剌の味ある物だが味の判る程多量には入れないので其の道の者にも中々判らぬ

▲腐敗物豫防法　藥品を以つて飲食物の腐敗を防ぐのは一寸輕便な所から行はれるが甚だ拙劣な仕方である、人は注意の仕樣によりては容易に腐敗を免れる事が出來る、即ち飲食物は支那人のする如く能く煮沸しそして煮沸した鍋の中に蓋したまゝて置けば割合永く保つものである、又三合の牛乳を呑む人ならば、三合瓶て取寄せて一合宛三回に飲む樣などはせず、一合瓶三本て取寄せて其の時〳〵に煮た物だけは綺麗に片付ける癖を養はねばならぬ、凡そ學問の上には腐敗といふとはない筈のもので最も巧妙に出來た鑵詰は永久に腐敗せぬのが當然である

▲黴菌の害益　物を腐敗させる原因になる黴菌は動物、植物、有害有益とある如く害益の二樣がある種々の病氣を起し飲食物を腐敗させるのは有害の方で酒精、酸、醬油、味噌、納豆等は有益黴菌の力て出

來る、豆と麥とを十年置たとても黴菌が居無れば味噌が出來る物ではない、且黴菌が物を腐敗させて吳れ無つたら世界は人類の屍體ばかりでも埋つてしまう譯で世界の最大機關は最小なる黴菌の力である

▲酸味を喰へ　酸性の物はペスト菌、コレラ菌の如き弱い黴菌を殺す力があり、腐敗を遲くする力がある、二三十年前は梅酸はコレラを全治すると考へられて居た位だ人は酸味を適宜に取ることが必要てある

▲團子と花見料理　花見時の塵埃立つ間で重を開いて食事する程危險なことは無い、之れは花下では開かず室內でするか、又は船中でするべきである又花見料理を一つ〳〵辨當にする人があるが一つ箱に飯と菜とを一緒に入れると時節柄の暖かさに飯のあたゝかさて魚肉などは最も早く腐敗する、辨當の肴は食はぬがよい、夫から團子も消化が惡い總てパンの如く小空虛の澤山ある食物ほど胃液を容易に吸收して消化がよい

▲體內割烹　體外消化總て日本の料理や菓子は皆衞生や消化といふ事を度外視して居て、全く一つの美術であるかの觀がある、夫れも必要だが腹へ入つてからの事も考へねばならぬ、元來割烹の術は體外の消化て、消化は體內の割烹であることを知らねばならぬ、これからの料理人は黴菌や消化の事は一通り心得て居らねばなるまい

●學校衞生と校舍の建築

（駿河囑托醫の談片）

近來各種學校の創立を屆出づるもの增加せるは寔に喜ぶべき現象なるが其設備に付衞生上遺憾の點少なからざるは往々なり殊に校舍の敷地に至ては全たく衞生上の注意を怠るものゝ如し其の甚しきに至ては田沼等の濕地を埋めて敷地に充てたるものあり此等は經費の節約より出てたるべしと雖も後日却て多

額の損失を見るに至るべし現に某縣師範學校の如き沼地を埋めて建築したるを以て學生中肺病脚氣病等の患者を續出し遂に校舍を他に移轉するの止むなきに至れり若し夫れ田とか沼とか云ふ樣な濕地に建築せんとするときは充分濕土及び土根等を除かざるべからざるを以て田地々沼にして適切の敷地を得んと欲せば却つて多くの費用を要すべければ寧ろ始めより濕地を採用せざるに若かざるべし勿論敷地撰定に際し衞生上の不適を判定するが如きは識者を俟ざれば容易ならざるべしと雖も敷地撰定の如きは校舍建設上重大事件なるを以て此等の場合には必らず專門家に相談して其判定を乞ふべし由來校舍の建築設備に關する認可を地方長官より發するに至れるは一般の衞生智識進歩したる今日最早此等の判斷を地方に一任するも差支へなかるべしとの考へなりしも實際は未だ遺憾の點尠からざるも去りとて文部省に屆出づる時には既に校舍の設備出來上りたる時にして經費上實行の出來ざる場合多きを以て地方官が監督の際には充分の注意肝要なり然らずんば遂に救ふべからざる大事を惹起するに至るべし云々

寄書

贊成員　本山捨五郎君

氏は去る三十四年以降防疫事務に鞅掌し昨年新潟縣に於ける赤痢大流行の際は其實況を審かにせられしとて態々左の記事を送りこされたるものなり

昨明治三十八年本村は(東頸城郡浦田村)近來稀なる赤痢大流行でありました發生は八月上旬で初め東の方一村落に突然一二名の患者が發生しましたが忽ちに附近へ蔓延を初めましたから本縣郡の檢疫委員を始め警察官吏、村役場吏員、衞生豫防委員共同一致しまして豫防消毒に全力を盡されましたが氣候は不

順でありましたから九月末日迄には、患者總數八拾四名に達しました私は傳染病豫防事務に關係して居りましたから先大略を記して皆樣方に其一般を申上げましやう病室は甲乙に區分まして甲には重症乙には輕症以下疑似及び恢復期と分ちましたが何分病院の狹小なるが爲め其混雜一方ならず重症者にありましては一晝夜排便の度數は百五六十回にも及び排便の苦悶は實に御話しになりません蓐衣を着掛くれば直ちに拂ひのけると云ふ有樣にて脈搏は百、二三十又殆んど觸れぬ樣の者もありました赤痢は腸窒扶斯と違ひ精神は極めて確かなるものゆへ殊に看護するものは一と通りのことでありません中には窒扶斯樣赤痢とて體溫四十度以上に昇り精神朦朧として讝語を云ひ寢床の中にて荒れ廻り糞便にまみるなど目もあてられぬ有樣で水が呑みたしと頻りに訴へるにより煮沸水を與ふれば何程飮ますも是で澤山と云ふことはなく丁度燕の子が親より食を受ける時の如く人さへ見れば口を開ひて待ち兼ね居る有樣で此等の重症者にありては一晝夜に三名の死亡者を出せしことがありまして看護して居るものも一朝誤つて此毒に感染せば又同樣に此苦悶をするのかと思へば實に心細い有樣で御座いました併しながら輕症者にありましては忽ちに快癒したものもありました幸ひの事には該病院に勤務しました醫師三名、看護婦及附添看護人拾數名消毒人夫小使炊事事務員等通じて三十餘名でありましたが一人も之れに感染したものはありませんでした病症は前述の如く劇烈なものもありましたが十一月三日に至りましては豫防及び其治療効を奏し全治退院する者多く患者は皆無となりました之れ全く上官の措置其宜しきを得たるもの自分は勿論一同愁眉を開きました

先づ病毒の蔓延したる經路は如何にと申せば此村落には近年該病の流行したることなき爲め豫防期（六七八月）に至りましても餘り注意を拂ふものもなく兒童等は未熟の菓物又は生水を飮用して少しも怪しみませんでしたが時候不順の爲め一般に腸胃を損し

て居る際玆に何邊よりか本物の赤痢病に罹りて來りしものがありましたが兎角隱蔽する習慣がありますから人々は之れに少しも氣が付きませんで兒童の交通親類などの見舞によりて忽ち諸方に傳染蔓延したものと思ひます

赤痢の病毒は口より入りて傳染するもので胃の腑や小腸の中に寄生繁殖することなく腸の下部（S字狀部）のところに至り寄生繁殖するので是れが爲め顏色は憔悴し甚だしく疲勞する者であります此の病毒は決して吐物や痰や唾液の中にはありません全く患者の糞便中に存在しあるのみなれば民間ては兎角患者の家に往きても飲食さへ爲さゞれば決して傳染するものでないと思ふて竊かに見舞に行き歸りて自家に忽ち同病の發生して驚くの例誠に少くないので蓋し一を知て二を知らざるものであります夫れ健康者が病家へ見舞に行く時には必らず戸障子の手掛け又は臺所や座敷の器の敗物などに病毒の附着しあるは目に見えざるものゆへに知らず〳〵手を突き見舞の言葉を述べ（此時最早手指及び着物の下部に病毒が附着するのである）例令湯も茶も呑まずに直ちに立歸り別に消毒することも氣付かぬことゆへ手なども清めることもせず飲食の時期となり飲食するときに茶碗の淵に手指を掛けて持ち此時病毒は手の指より茶碗に附着せしを知らずして其部分に口を附け飲食して病毒を胃中に送る玆に初めて感染蔓延するに至る當地の流行も又此例によりたるものと思はれました

さて病毒菌は胃より漸々下行し遂に大腸下部S字狀部附近の腸内膜に寄生し追々繁殖すると先づ粘液を糞便中に混じて下痢し遂に血液を混ずるに至ります病の進むに從ひまして糞便は水樣粘液となりて惡臭を放ち重症になりましては恰も膿血の樣になり排便毎に疼痛の裏急後重（シブリ腹）を伴ふもので、實に苦しく恐るべき疾病であります

都會の地には近來赤痢の流行は殆んど耳に致しませんが兎角地方には流行發生し勝てありますから萬々

御承知の事とは存じますが該病傳染の系路及誘因となるべきものを今少し述ましやう

一患者の糞便又は同汚染の布片に觸れて其手指を消毒せざる間に誤りて口邊に致さるゝ等は本病傳染の元て或は厠圊の地盤が完全でなき爲め附近の井水を汚す等は尤も恐るべき媒介であります

一病毒に汚染せられたるものを河川等に投棄したるとき兒童等の游泳に際し此水を呑むも又同じ此外蠅其他の昆蟲類によりて病毒を諸方へ運搬することも又事實である

一此外卑濕の地に住居し狹き室内に群居し又は新築せられて未だ壁などの乾かぬ家屋に起臥することは凡て蔓延を助けるものであります

一誘因となるべき疾病は胃弱、腸胃加答兒、其他喉頭氣管子加答兒、心身の過勞、暴飮、暴食、運動不足、感冒、便秘、藥物殊に下劑の濫用等其他精神興奮、恐怖、放逸、亂行等悉く之れが誘因と成りますが特に感冒は百病の元と謂ふてありますから腹卷により腹部の冷却を避け下痢を來さゞることを勉められたし、感冒は遂には胃腸に患害を誘起しまして、傳染性消化器諸症の侵入し易き所となります

一傳染病流行の時期には常に石炭酸水を調製し置きて消毒の注意が緊要であります左にビール又はブドウ酒の空瓶壹本に石炭酸水を調製する分量を示しましやう

一石炭酸三十三グラムを瓶に入れ之に水（温湯なれば尙よろし）五勺程入れよく振りまぜ混合した後幾度にか水を入れて混合せしめ遂に瓶一ぱいにするなり是二十倍の石炭酸水なり

一石炭酸十四グラムを瓶に入れ水（温湯の方溶け方早し）少量入れよく振りまぜ其後幾度にか水を入れ混合しつゝ四合瓶に一パイにするなり是れ五十倍の石炭酸水なり

聊か赤痢に關する略況及注意を述べましたが後日に至り、諸姉の參考と成るべき部分もあれば誠に幸榮とする所であります。



質疑欄

●●●●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又解答に遲速あるは取調べの都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかり易く認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にてもよろしきも事務所へは姓名御報知の事●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす●總て急ぎの分は回答せず

問　小兒十歲より十四五歲のもの感冒の際熱の分離充分ならざりし結果とかにて咽喉部（俗にのどちんぽの脇）に指頭より大い硬き凝り出來たるものあり是れは不治のものか又は醫療により解除し得るや伺上候

質問者　岐阜一會員

答　感冒の爲め熱の發散不充分なりし爲め起ることがありますがコレハ決して不治の病ひではありませんコレハ扁頭腺炎と云ふもので鹽酸加里などの含嗽劑でうがひをなさるがよい甚だしきに至りては之を切除しても治癒することが出來ます

問　私の弟本年十八歲にて中學に出て居り候へども一週間一度位休眠中知らず／＼遺精すと其害及豫防法伺上候

質問者　新潟一會員

答　遺精を屢々するときは顏色憔悴記憶力消亡して又人と學術界に競走することが出來ず空しく人後に立たねばならぬ悲境に陷りますされば其豫防としては毎日冷水摩擦を勵行し高潔の精神を以て學業を勵まん事を望みます

問　惡臭の瓦斯が肛門から出るのは如何なる譯に候や

質問者　兵庫一會員

答　俗に申す「おなら」の出るのは胃腸の健否によるので多少腸胃の工合惡しき證據であります即ち食物消化の際醱酵作用によるもので餘りおならが出るならばよく腸胃を調ることを御注意なさい

質問者　須磨の一會員

問　糖尿病の原因症候治療法及胃腸病養生法を通俗的に著した本はありませぬか又醫藥服用中タカジアスターゼ及グリコナールを服用しても害はありませぬか

答　糖尿病の原因症候治療法等は昨年の本誌に詳載せる醫學博士木村徳衛氏の講話を御熟讀あれ胃腸病養生法は通俗的に著せしものは湯川玄洋氏著の如きは尤も簡明なるべし又醫藥服用中タカヂアスターゼ、グリコナール（是れは糖尿病などに用ゆ）服用するも害なし

質問者　關西一會員

問　私は肺結核患者ですが家計の都合により良醫の監督もなき自宅にて療養せねばならんのですが現今著述しある肺結核治療及養生法を通俗的に書いたものを悉く御教示下さい

答　通俗的に書かれた肺結核豫防法には醫學士竹中成憲君の著書適當なるべし豫て本誌に廣告もありし如く肺結核療法、肺結核豫防法は何れも通俗的にしてよく其治法を集め說れたるものなり東京本郷春木町二丁目半田屋にお注文になれば得らるべし又佐竹音次郎氏著結核征伐と云へる本も至て簡明なりと聞けり

質問者　新潟贊成員

問　熊膽は如何なる効能ありや有る地方の民間には熊膽程効能著しきものは無二の樣に信じ居る者有之候一般の病氣甚急の場合に醫師間に合ざれば先づ熊膽を與へて見よと云ふを殆んど常とす故に非常に高價なるに係らず民間備へ藥として買ひ求め置くを見聞せり依て以上の御教示を乞ふ

答　熊膽は如何なる病にも効能ありとは申されません病氣に因るのです僻地にありては適藥が間に合ひませんから古くより之を信じた結果でしやう熊膽の効能としては烈しき苦味を有し居りますから俗に申す氣付け劑又は腹痛などには効能があります腹痛は人々の動もすれば憂る病なれば此健胃劑によりて治癒するもの多きと同時に之を信用する程度も益々深

くなつたものでしやうが都會の地にては之に勝る適應した醫藥が澤山ありますから昔しの樣に左樣熊膽は賞用しませぬツマリ健胃劑より外ありません ●

質問者　三重一會員

問　私知友近頃子宮病に罹り醫師の診察を受け候處子宮内膜炎と申候此病者の平素の心得及療法伺上候

答　子宮内膜炎なれば婦人科専門の醫師に就充分に治療を加へねば遂には大患に陥りますこれには每日數回子宮内を洗ふことを醫師は勸めたでしやうこれは食鹽水よろし併し餘り急劇に洗つてはいけませぬ眩暈することがあります故に始めは徐々になし漸次盛に洗ふをよしとす洗滌器はイルリガートルとて圓筒に護謨管の着きあるもの（醫療器械店にあり一個三四十錢より一圓五十錢位）之を便所に備へ置き圓筒中に食鹽水を滿てゴム管を子宮にさし入れ洗ふものなり平素運動は過劇にしてはいけませぬ時々海水溫泉などに入り滋養物を取り房事過勞等は嚴禁せらるべし

質問者　山梨の一女

問　蝮蛇を燒酎に漬けて久しく置き胃病の根治藥とか申し地方により貴び居り候へども事實に候や又害なきものや

答　如何なる効能あるや未だ承知せず害の有無も不明に屬するも世間の俗説に迷はされて測らざる患害を被らざることなしと期すべからず未だ効能の證明立たざる怪しのものは用ゐざるをよしとす

質問者　神田通常會員

問　牛乳を飲むには食前と食後と何れがよろしく候や伺上候

答　食前食後何れにてもよろしけれど朝早起きする人なれば食前もよきも食後の方却つて食物消化の助けとなり便宜よろしかるべし

質問者　阿部谿子

問　大根おろしは其中に一種のヂアスターゼが含まれてあるにより食物消化に大なる功のある樣

本誌に書かれてあるが此大根おろしに酢を混和して用ゐては功能を失ひますか又朝飯に調理したる大根おろしを晝或は夕飯迄て長く置きたるものは功なきか如何伺上奉り候

二、慢性胃弱の持藥として平素用ゐる藥はなきか如何卒御教へ下され度候

答　大根おろしに酢を混ぜざる方よろし醬油は少しも變化を來す恐れなしと知らるべし又大根おろしは成るべく丈食事の當時こしらへる樣になさゞれば一種の臭さ味を有するに至りますされば朝飯に調理したものを晝又は夕飯迄殘し置くことは到底くさくして食ふに堪へません夏季に當りては腐敗も速かですから總て食物は尤も新鮮なるものを用ゐねばなりません

慢性胃弱の持藥は素人用にては重曹位なるべし併し醫師に就き充分の注意と診察を受け果して慢性なれば醫師に處方箋を受けて常に服用せらるべし新潟一會員の御質問に大根に辛味のあるのは「チアスターゼ」に關係するかとの御問ひに對してこれは關係せざるべし盃に大根しぼり汁三杯ものむときは酒にても醉ひたる心地するは性質にもよるのですが蓋し多少の興奮性を有して居るからです

安田富美子樣へ

答　胃病の爲云々の件診察せざれば遺憾ながら不明に候小便の色の茶褐色なるは熱の關係併し他に故障なしとすれば左迄御心配の事もありませぬ併し食後一時間位も胸に支へ苦しまるゝとは食道の狹窄の故か否や若し果して然らば少しも早く良醫に就き治療を受けらるべし只胃痛位のみと心得居らるゝは間違ひの種です蓋し尿の色の變ずるも此等の疾患より來るもので其病ひさへ治癒さへすれば尿色も自然普通となるものなるべし又年々身體足部關節下冬季炬燵煖爐に接近するときは非常に痒ゆく出血するに拘はらず搔き初め局部を見るに毛穴一面に膨れ居るとは多分濕疹の類ひでしやう濕疹の藥法本誌に曾て記載したるがありますが併し診察しませぬと確かに斷言

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

することは出來ません風邪に罹りたるときも熱の發作の爲め恰も煖爐にて温むると均しく痒ゆみを來すのでしやう右二件は東京へ御出でになり專門家の診察を受けらるゝを御勸め致します

問　私事昨年秋頃より每月月經のあるとき必ず風邪ひきまことに困り居り候如何致し候へば風邪ひかぬ樣に相成候やみをしえを願上候

質問者　すみれ

答　月經中身體に異常を來し易いものですから皮膚のよわいお方は忽ち感冒などに罹られるのです每度申すのですが皮膚のよわいお方は冷水摩擦をなすつて平常より風邪をひかぬ習慣をお付けになつて月經の時には腹部等を冷やさぬやうになし常に寒暖の度に變化なき樣注意し滋養食を取り身體を強壯になさいまし風邪を度々引くのは營養不良貧血などの人に多しと知らるべし

中外彙報

○癩病取締法

（内務省の豫防方針）

全國の癩病患者數は明治三十年の調査にては二萬三千人、同卅三年には三萬三百人（何れも警察官の調査）にて未だ確實なる數を得ざるが目下調査中なれば一兩月中には分明すべきも先づ四萬内外の豫定にて▲患者の散在地は比較的東北よりも關西に多く就中九州四國は其首位を占め居るが是れ一つは故國を去つて漂浪する上より寒地の不適當なると一つは神社佛閣の西國に多きより自然に集り來れるなるべく▲其の最も多きは熊本の二千七百六十五人、之れに亞ぐは鹿兒島の千六百五十四人、第三は福岡、第四は大分、第五は愛知第六は兵庫にして以上孰れも千人を越え▲其の最も少きは富山の百六十四人石川の二百三人、次いでは北海道、山梨、東京、鳥取、京都の順にして共に二百七十人以下に居り▲村にて

最も著名なるは俗に癩病村と稱する草津の下村なるが此所は全戸數四十の内只だ二戸のみが健康者の家にて他は皆溫泉が有効なりとて集り來れる者なりと

▲又徴兵檢査の時發見せらるゝは毎年四百二十人より六百二十人の間にて平均五百二十餘人なるが之れを全檢査人數に比すれば一、三に相當する故更に之れを全國四千八百万人に算當せば六万三千人の癩病患者ある筈なれど▲本症は幼者には發せず特に十歳以下には皆無にて壯年時に發病し十年若くは十五年間煩ひ續け肺結核等を併發して死亡する者多く又老人にも甚だ少ければ六万三千人以上なる筈はなく

▲全國にて癩病の死者は年々二千人前後なるが此の患者が死する迄を平均十五年間と見れば三百人を得れば結局三萬と六萬の中間位が動かぬ數なるべく

▲この豫防取締方法は今や衛生界の難問題となり居るが内務省の方針は未だ發表に至らざるも山根代議士が衆議院に提出せるものと大差なく、經費不足の際とて患者は總て扶養義務者に費用を辨ぜしめ、義務者無きものは縣費にて、原籍地不明の者は發見したる縣の費用にて孰れも隔離せしむるにありといふ

▲トラホームの流行と豫防取締　内務省に於てトラホーム豫防取締規則を制定する事に決し過般來種々取調中なるが近來該病は全國各地方へ病毒散蔓し又毎年の選定成績に徴するも其多き事實に壯丁の五十分の一乃至四十分の一を占め居れる現狀にて特に學校、工場、料理店其他多數人民の集合所等に於ては其流行頗る劇甚なるを以て差當り左の良防處置を爲す事に警務長會議に於て決せりと

一、多數人民の集合する屋場内には塵埃の飛揚を防ぐ爲め濕拭掃除を勵行すると
一、便所の手拭の共同を禁止すると
一、手洗水は汚染を避くるが爲め流出装置を設備せしむると
一、患者をして初期に治療法を講ぜしむると
一、個人衛生思想の發達を奨勵し家屋衣服身體の清潔保持を衛生講話其他の方法により人民に訓諭すると

▲トラホーム豫防規則　近年春季に際し全國各地方を通じトラホーム患者著しく增加し特に地方に依

つては小學校生徒間に感染し非常の速力を以て流行し往々該患者續發の結果不得止休校するが如きもあり普通教育を阻害するのみならず勢ひ公衆衛生に及す影響も不尠に付其筋に於ては該病豫防取締規則を制定せんとて昨今種々取調中なりと傳へり

▲實布垤利亞の治療に就て　曩に內務省に開きたる警務長會議に於て實布垤利亞豫防に關係する件も議題に上りたる由なるが該病の治療及び豫防に關しては有効確實なる血清治療法あるに拘らず國民一般に衛生思想普及せざる結果該病の死亡率現在三十プロセント內外にして其成績不良なるもの丶如し今日に於ては實布垤利亞患者は其初期に於て醫師の診斷を受け以て血清治療を行ふ時は百人中九十九人迄必す全治すべきものなるに前記の如く三十プロセント內外の死亡率を視るは是れ全く患者が初期に於て醫師の治療を受けざると又た地方等に於ては其血清を急速に購求すること能はざる等に基因するものなれば該患者發生に先ち有志者は率先して衛生講話會の開設又は其他の方法に依り患者の早期受診及び血清注射を奬勵し又該血清を平素郡區役所町村役場警察署等に準備し其普及方法を講する時は該病蔓延は勿論一家數名の同患者發生を見るが如き憂は毫もなかるべしと內務當局者は語れり

●喫煙家十戒　煙草は茶及酒と共に嗜好品の一つなるが往々之を多量に用ゐて健康を破る人あるより獨逸伯林大學校教授醫學博士プォイフォル氏は其十戒を作り一々簡單なる說明を附せり今爰に掲げて愛煙家の參考とすべし

一、口中に久しく煙を止め置くべからず（有毒質唾液に溶加して胃に入るの恐あり）

一、空腹時に喫煙すべからず（中毒の恐多し）

一、飲酒の際は喫煙を嚴禁すべし（ニコチンの酒精に溶解して胃中に入るや消化器を害する恐あればなり

一、肉食時には、禁煙すべし（肉の成分とニコチン化學的變化を生じて害毒をなすこと少からず）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一、咳嗽を生ずる時は一時中止すべし（往々氣管支加答兒の誘因となる）

一、濕氣あるものは決して喫む可らず（中毒を招き易ければなり）

一、安煙草は喫せざるを可とす（品質粗惡なれば毒素を含むことも亦大なり）

一、喫煙室の空氣は常に新鮮なるを要す（汚れたる空氣中にて喫煙せば一層健康を害すること多し）

一、葉卷煙草は平均三分一以上を一時に用ゆ可らず（消化不良を來す等有害の結果を生ずればなり）

一、長く引籠れる時は喫煙せざるやうすべし（往々眩暈頭痛等招くことあり）

▲赤鼻を治する新法　鼻の赤き者あり從來多く飲酒に歸し事實此の原因頗る多き樣なるも研究の結果原因既に血液過多にあれば手術を以て血管を破り能く之を癒すを得べしと近頃獨逸外科醫の思ひ付にて種種考案の末一種の器械ラッサル教授により發明せられ現に成效を見つゝあり其器械は極めて細き白金の針を束ねたるものを鼻に當て電氣仕懸にてチク／＼刺す時は毛細管は破壞せられ漸く其數を減じ從つて血液量を減じて一週一度乃至二度にて總計六回乃至八回の手術を受くれば普通の色の鼻になし得るなり手術には局處痲痺劑を用ふるも大抵はこれなくして堪へ難き程の痛みにはあらずと飲酒家ならぬ寒氣に暴露せる爲の同病者も試みて然るべしとなり

▲電音計診斷器　牛込區市ヶ柳町二十五番地醫師阪本隆哉氏は電音計診斷器なるものを發明し過般開催せる全國醫學聯合大會に於て之が說明を試みたるが今其說明に關し同氏の說に曰く從來の診斷方法は普通聽診器を使用し又は手診法に依り特別の場合に顯微鏡檢査又は放尿檢査等を行ひて間接の診斷を爲し居りしが聽診器にては呼吸狀態に於て存在の音響を聽き得るに止まり而も四サンチメートル以上の深さとなりては聽音困難なるを以て其診斷器として不完全なるは云ふまでもなく又打診法の如きに至りては其技術の巧拙如何によりて音響を異にして而も

音響粗大にして到底微細なる病狀を判定するに足らざりしが氏は物質は其分子によりて音響を異にすと云へる原理に基き電力を應用して正確なる音響を聞くことを得べき器械を發明したるものにて此器械に依るときは深さ十五サンチに達しても如何なる微細の音響と雖も正確に聽き分くることを得るが故に之を用ひて病因を發見すること容易にして從來最も困難とせし、肺病の初期の如きも容易に發見するとを得べく又妊娠の如きは一週間を經過せば直ちに判定することを得と云へり而して氏が此工夫を思ひ付きたるは十年以前のことにして爾來特に北海道札幌に江陽病院を建設し同所に引籠りて専ら研究に從事し漸く一昨年に至りて略ぼ好果を奏したるを以て器械製作の都合旁々特許出願手續きの爲め出京し昨年五月専賣特許權を得たるなりと

▲死者を生前通りする法　法醫學其他場合死體の撮影を必要とするとあれど人は死後其相貌一變するを以て思ふ樣にならず然るに此頃巴里のペルチロン博士は死者を生前通り寫眞する良法として左の發明を公にせり曰くプラッツの注射器を以て廣利設林の三乃至四滴を死體の眼中に注入せば瞼は自づと開きて再び閉ぢず而して眼球の溷濁を防ぎ其光澤を附せんには更に廣利設林の少許を角膜に滴らすなり恁くて又唇にカルミンを塗れば一見生體と思ふ程になる、此方法今や巴里及伯林に於て稱揚せられ死後に撮影すべき一般の寫眞に應用すと云ふ

▲附耳の花嫁　醫術の進歩せる今日は人間の技術却つて造物主の巧を奪はんばかりにて痩せた女もパラフイン油を注射して肥らせ獅々鼻も隆鼻器にて仕立直し佛頂面も電氣針を利用して笑靨を作り尚ほ腮の歪みを直し顏の皺を伸す法さへありて何人も金さへあれば業平小町の株を奪ふ事容易なり現に先頃米國紐育の一富豪は片耳無き不具の娘を持ちて年頃となり居るも思はしき嫁入口無く親達は一方ならず苦にし居たるが遂にドクトル、ペンゲル氏と相談の上五百弗の賞を懸けて貧民より耳朶を買取りペンゲル

氏自ら執刀して夫を娘の不具なる耳に繼ぎ合せしに手術美事に効を奏し程無く娘は少壯紳士の申込を受けて滯り無く華燭の典を擧げたる由近着の紐育醫事週報に見えたりと

▲ペスト撲滅の最上策　一度本所區内にペスト患者の發生せし以來年々一定の時期に際して有菌鼠を發見し又往々疑似患者眞症患者等を出すこと絶ざるより北里博士は之が撲滅の根本策として曩きに濠洲に於て野兎非常に增加して農作を害すること甚だしかりしより之が捕獲を奬勵し特に其の牝兒を高價に買收したるに牡兒は自然に減數して遂には其影を見ざるに至れるを例とし今後雌鼠の公買價格を高うして其繁殖を防ぎ以て鼠族の殲滅を圖らば軈ては其影を收むるなるべしといへり

▲癩病國と美人　内務省最近の調査にかゝる青森縣下に於ける癩病患者の數は七百八十五人なるが此程増田某なる人の實地調査に依れば第三期の癩症のみにても二千九百人の多數に達せりとは驚くべし同地方は人も知る如く容貌端麗皮膚の美はしきこと白玉の如き美人に富むは畢竟是が爲なりと云へど如何にや

▲本年の流行病に就て　昨年は戰時に拘はらず流行病の發生意外に少なかりしに上下一致豫防に注意したる結果たるべきが本年は戰後の事にもあり且つ滿韓各地との交通頻繁を加ふべきに付き虎列拉其他の流行病輸入の虞あり時下追々暑氣に向へるより當局者も大に此點に注意し居ると云ふ

▲學位授與　明治三十四年帝國大學醫科大學を卒業し直ちに獨逸留學を命ぜられ歸朝後愛知病院長となり病氣の爲め歸京靜養中なりし大鳥圭介男の次男正七位大鳥二郎氏は過般論文を提出し學位を請求したるが昨日午後二時文部大臣官房に於て學位授與式を擧行し牧野文相より醫學博士の學位を授與せられたり

▲病院醫師其他概數　其筋の最近調査に據れば全國官公私立病院概數は八百七十三、藥劑師の總數

は二千八百九十八人、薬種商は二万七千三百十五人製薬者は二千三百六十九人、醫師は三万五千百六十人にして人口一万に對する醫師は七人、五二なりと

▲東京市醫の受持區域　東京市の市醫は從來其區の居住醫士二名に囑托し來りしが今回之を改め特に市衛生課に六人の醫士を雇入れて市の醫務を取扱はしむることゝしたり其受持區及び人名は左の如し

麹町、神田	松浦瀾枝
日本橋、京橋、芝	山村啓吉
麻布、赤坂、谷四	鈴木龍太郎
牛込、小石川、本郷	北村龍夫
下谷、淺草	渡邊學之
本所、深川	伊藤保三郎

▲醫術開業證書授與式　昨日午前九時文部省修文館に於て醫術開業試驗に合格したる後期生四百五十七名に對し、委員長足立寛氏より合格證書を授與したるが、内東京二百十七人、地方二百三十九人なり

▲樺太の衛生　熊谷長官の談なりと云ふを聞くに冬期の經過は頗る良好にして少數なる感冒及び僂麻質斯患者を出したるに過ぎず唯海馬島に於ける越年者皆死亡したるが是は密閉せる室内に於て炭火を燃らしめたる爲め炭酸中毒に罹れるならん

▲ベルツ博士の歸期　門下歸國中なるベルツ博士は本年八月歸朝に決したるが博士の來朝を待て醫科大學内に設けられたる同博士及び故スクリツパ博士の銅像除幕式を執行する筈なりと

▲雜報、有菌鼠を發見せし深川區松村町にて四棟廿八戸に對し高三尺のトタン圍ひを爲し大に消毒勵行せり●天然痘横濱に發生せり種痘の時期小兒を持つ親達の御注意緊要●神戸下關其他各地にポツ〳〵ペスト發生す寒心の至りなり●魚類の卵は毒のある事あり月島の漁夫之れが爲めに一家數人中毒又千葉縣の歡迎會の折詰に中毒せし原因も又海老の玉子なりしと兎角魚類の卵は毒あるものと見ゆ

▲お伽演劇　婦人新聞社は滿六週年三百號の祝賀の爲め本月十七、十八、十九の三日本郷座に於て藤澤高田一座のお伽演劇を催し純益の二分の一は大日本

護國幼年會に寄附すといふ



治庖會本部教場主事　安西こま子

▲まぐろ
せん筍
木のめ味噌あへ(下酢仕立)

せん筍は、筍を柔らかにゆでて、せんに打ち酢の中へ暫らく浸しおきて取出し之をかたく搾り、又まぐろは刺肉に作り、酢の中へ暫らく浸しおきて酢を切り而して筍と共に木のめ味噌にてあへるべし、又木のめ味噌の拵へ方は、先づ山椒の葉を鹽水の中へ暫らく浸しおきて取出し之れを水にて能く洗ひ、水を切り、次に葉をこきて筋を除き、擂鉢に入れて能く擂り次に白味噌を加へ擂混ぜ(白味噌と山椒の葉との割合は擂い混ぜて味噌が薄茶色となるやうになすべし)次に白砂糖を加へ擂りまぜ而して裏漉せしものなり

▲莢ゑんどう
芥子あへ

莢ゑんどうの筋を去り、水にて洗ひ之を沸騰湯の中へ投じ變色せざるやうに注意して柔らかにゆでて之を目笊に上げ、薄く擂げ直ちに扇ぎて冷しおき、別に鰹節の煮出汁と醬油とを四分六分の割合に混じたる汁を以て灰ぬき芥子をとき、此中へ前のいんげんを暫く浸しおきし後皿に盛るべし

▲鯛木のめ味噌やき
筆生姜

鯛の木のめ味噌燒は、鯛を切肉となし、醬油の中へ三十分間程浸しおきて取出し、金串を打ち、兩面をやき而して肉の方へ木の芽みそを塗り、一寸炙り乾かして串をぬき皿に盛るべし、又木のめ味噌の

拵へ方は前の項にあり

筆生姜は、新生姜の根の處を筆の穂先の形ちに切り、軸を一寸五六分附し之を沸騰湯の中へ投じ、ザットゆでて直ちに冷水の中へとりて能く冷し、之を鹽酢に暫らく浸しおきて用ゆべし但し鹽酢とは酢に少しく鹽を加へしものなり

▲しもふりいか

枝もづく
わさび
かげん酢

しもふりいかは、かふ烏賊をせんに切り之を沸騰湯の中へ投じ手早く菜箸を以て二三回攪拌て、直ちに冷水の中へとり、能く冷して目笊にあげおくべし

枝海蘿は、もづくに灰をまぶし兩手にて能くもみ後ち、水の中にてもみ數回水を取換て能く洗ひ、布巾に包みて水を搾り、あらく庖丁を爲し、烏賊と共に皿に盛り客に出すときに際しかげん酢をかくべし

但しかげん酢の拵へ方は味淋を一回煮立てたるものと生酢とを等分に合せ之に少しく生醤油を加へしものなり

▲吸物

鹽飛の魚
おろしだいこん

鹽とびの魚を枚におろし、小骨をぬき適宜の大さの骰子形に庖丁をなし之を沸騰湯の中へ投じ、一寸とゆがきて之を五個或は七個づゝ椀に盛りおき而して客に出すとき、清汁を注ぎおろし蘿蔔の搾り汁を少しく垂らし入れ供むべし

西洋料理

▲ボール、ビーフ、スチウ

牛肉(ラン)二百目を庖刀を以て細く敲き之に鷄卵の蛋黄二個と大なる玉葱一個の四分の一程をみぢんに打しものと馬鈴薯、並の大さのもの二個)を湯煮して裏漉せしものとを能く混合して之にセリー酒又は

ブドウ酒少々と鹽と胡椒とを加へ手にてこね而して之を小なる團子にまろめてフライ鍋にとり、牛脂を少しく加へ少しく色づく程にいため、別にフライ鍋に玉葱一個を細かく刻みたるものと大匙一杯の牛酪とを入れ、充分に焦し之に米利堅粉大匙一杯を加へて暫らく攪拌せし後ち之に少々づゝスープを加へて緩め而してスチウ鍋へ移し、前の團子を入れ、鹽と胡椒とを加へて其味を試み、文火にかけて、凡そ三十分間程煮るべし

▲ポーク、サラダ

豚肉（目方二百目程の一塊）の兩面に充分に鹽をすりつけ、之をストーブ又は天火の中へ入れ蒸し燒き凡そ一時間程を要す、）冷めるを待ちて木口より薄く切り、之れを大平鉢に並らべ入れ、其上よりウスタソース少々とサラダ油少々と酢少々とを注ぎかけ尚ほ之にみぢん葱少々と鹽とを加へ其の儘此汁の中へ暫く浸しおきて皿に盛りパルセリーを添へて侑むべし

▲ロール、ポーク、フライ

豚肉（脂肪肉の少きものを撰む）を成可薄くへぎ鹽をあておき、鷄卵の蛋白をへぎ肉の片面に塗り、小枕形に丸めたるミートを心として卷き之に米利堅粉を塗り次に鷄卵の蛋黄を塗り次にパン粉を塗り斯の如くすること三回程なして牛脂にてあげ、斜に二ツに切りて皿に盛り、生レモン半個とパルセリーを添へて侑むべし

但しミートの拵へ方は牛肉を薄く切り、之をヘットにていため冷めるを待ちて細かく敲き切り別にフライ鍋に少しく牛酪を入れ、溶けるを待ちて前の敲き肉を入れ、かきまぜ、之にウスタソース少々とセリー酒少々と鹽とを加へて味をつけしものなり

▲ハット、ケーキ

米利堅粉大匙五杯と鷄卵の蛋黄五個トベーキングパウダー（燒粉）小匙一杯と鹽とを合せ、手に能くこね之に鷄卵五個の蛋白の泡立を加へてザット攪拌ぜ別にフライ鍋を火にかけ、ヘットの小塊を入れ溶け

るを待ちて前の液汁を大匙にて掬ひ入れ、片面の焼けるを待ちて裏返し、兩面を焼きちご又は他のジャムを包み込み、冷へざる中に侑むべし



大日本婦人衛生會記事

五月例會

五月五日第一土曜日午後正一時半より神田一ツ橋通女子職業學校に於て例會を開くドクトル新井古芳君には婦人に戰後の經濟を望むと云へる演題にて日露戰役に於ける戰死病歿の統計死産兒の多寡等に就き廣く各國に例を取りて詳細に演說せられ次に富士川ドクトルには疾病の話に就き前回に引續き講話せられ次回は疾病の治療法に付演說すべしと述べ右終りて散會せしが當日出席の役員は濱尾副會長以下七名なりき

●懇親會寄附

一、來賓用ビール一ダース　幹事　高木かう子

高崎支會

第四總會

四月二十二日(日曜)午後二時第四總會高崎市高等小學校内に開く

一 開會の辭　副會長　相川すか子
一 バイオリン(君ヶ代)一同唱和　幹事　三橋ひろ子
一 會辭捧讀　副會長　相川すか子
一 庶務の報告　幹事　齋藤れう子
一 會計の報告　副會長　相川すか子
一 講演　陸軍三等軍醫正　村上彌穗若君
一 役員撰擧の結果報告及び將來の希望を述べ閉會を告ぐ　副會長　相川すか子

第一席講師高崎衛戍病院長陸軍三等軍醫正村上彌穗若君登壇「婦人衛生に就て」と云ふ題にて先つ男女身體の異なる點を說き本論に入らんとするに先ち衛生と云ふの間違ひ安き言葉即ち美醜、清潔不潔、甘味、不味、有害、無害と云ふ各項に亘り詳細に說明せられ尚ほ會を進て說を繼がんと局を結び雄辨を振ひ會員に感動を與へたり當支會の爲め如斯き講師

を得しは幸福なり。閉會を告げしは四時三十分なり

出席役員は

相川すか子　三橋ひろ子　齋藤れう子　相川はま子

財津いく子　高草はかね子

講師は

村上軍醫正　大山武八郎君

役員改撰の結果左の如し

支會長　星野きよ子

副會長　相川すか子

幹事　（點數順同點は入會順）

齋藤れう子（會計）　三橋ひろ子（庶務）

土谷ひやく子（庶務）　高草木かね子（庶務）

長谷川りて子（會計）　財津いく子（會計）

評議員

相澤小松子　木多佐美子　清水かね子

正木操子　天利いし子　熊谷操子

鈴木くら子　相川はま子　村上まつ子

高山はる子　中村すゞ子　稲田あい子

新潟支會

四月例會

四月廿九日午後一時より新潟師範學校附屬小學校に於て新潟婦人教育會と聯合の上例會開會出席者約四十名講師及演題左の如し

精神病の豫防に就て　醫學士　瀧川正男君

如何にして戰勝國の婦人たる位置を保ちましよふか　佐柳千代子

正誤、前號雜誌入會者　特別會員安藤つの子は安藤つま子の誤り

新刊寄送書

家庭遊戯ちゑのくら　全二册（解説共）　一册十五錢

發行所本郷駒込四片町十番地　内外出版協會

全協會にては近頃續々出版せらるゝが今春非常に流行せし全會發行の家族合せの嶄新にして面白かりしは皆人の知らるゝ處なるが又本書は晩餐後など一ツ

二ツの問題を兒童に出し工夫解釋せしむる屈強の慰となり家庭兒童の娯樂用として有益なる智識練磨の良書なり



○本會入會者

○大學諏訪なみ子紹介
●横濱市南太田町二千百二十三　通常會員　服部　とき子

○麹町岡田穂子紹介
●京橋區南鍋町一ノ六　通常會員　飯塚　まつ子

●北豐島郡瀧ノ川村字二本榎　特別會員　諸葛　節子

○芝岸澄子紹介
●芝區三田功運町三十九　特別會員　八十島德子

○本郷高倉つな子紹介
●本郷區西片町十ヘノ十號　通常會員　小粂　千年代

○芝山田そ代子紹介
●芝區烏森町五　通常會員　中澤　春子

○伊豫高田直子紹介
●伊豫國松山市久保町ト二十六番戸　通常會員　黑田　龍子

○埼玉池畑いく子紹介
●埼玉縣南埼玉郡越ヶ谷町二八　通常會員　堺　まつ子

○廣島縣吉富霜子紹介
●廣島縣尾道市久保町　通常會員　岩佐富喜榮子

○高崎支會入會者

●高崎市宮元町八十五　特別會員　中島　けう子

○服部琴子紹介
●高崎市柳川町二　通常會員　佐藤　たね子

○天利いし子紹介
●高崎市四ツ屋町十五　通常會員　清水　とく子

○會員種類變更

●特別會員改メ　終身會員　星野　きよ子
●通常會員改メ　特別會員　清水　かね子

○改　名

●通常會員　岩田まさ子は　岩田　たつ子

○會員轉出

●高崎支會ヨリ本會へ轉入　通常會員　古田　友子

○茨城支會入會者

○幹事檜山やす子紹介

●茨城縣水戸市　通常會員　常井ちか子
●仝　通常會員　井上ふさ子
●仝　通常會員　松平ふく子

弔詞

高崎支會々員林曆智子には豫て病氣の處先般死去せられたりと本會は玆に謹みて哀悼の意を表す

私立大日本婦人衛生會



●轉居

●布哇縣布哇島ヒロ市へ　樋口つや子
●廣島市上流川廣島高等女學校へ　友近里子
●芝白金臺町一ノ八十二へ　志水貞子
●赤坂區青山南町一ノ三十三へ　安田定子
●名古屋市武平町二丁目新道百三十へ　松田眞津子
●赤坂青山六ノ百一、野村様方へ　寺本谷子
●京橋區元數寄屋町三ノ七へ　林春雄君

●本鄕區曙町七へ　石原久君
●神田區東紺屋町六へ　木村德衛君
●赤坂區青山南町六ノ八十二へ　武富すみ子
●牛込區加賀町二ノ二十四へ　安村忠子
●赤坂區臺町六十一へ　竹內有樂子
●遞信省官舍へ　小松いさ子
●神田區多町二ノ十三勝倉祿太郎方へ　小野熊子
●芝區車町三十五へ　鮫島絲子
●赤坂區青山原宿二百九へ　木場小百合子
●茨城縣猿嶋郡幸島村大字下片田十九へ　山中てる子
●麴町區有樂町三ノ一へ　高木俊子
●牛込區砂土原町三ノ三へ　中山よし江子
●神田區北神保町十三へ　白倉婦美枝子
●秋田縣鹿角郡小坂鑛山へ　田中かま子
●山口縣豐浦郡岡枝村字小田町山田醫院へ　隅野秀子
●佐賀縣佐賀郡與賀高等女學校へ　立野階子
●芝區二本榎西町二へ　高山あい子
●牛込區新小川町一ノ十七へ　梯澤たま子
●本鄕區弓町二ノ二十一へ　恩田重信君
●岩手縣盛岡病院へ　川上きん子
●鹿兒島市加治屋町百七十一へ　佐土原いれ子
●下谷區西黑門町金門商會へ　十文字こと子
●靜岡縣女子師範學校へ　平林たみ子
●麻布區霞町二十三へ　加藤きよ子
●芝區下高輪町九十五へ　齋藤春子

●麹町下二番町三十一へ　林　竹　子
●芝區三田四國町二番地一號へ　原　田　道　子
●芝區三田四國町二番地三號へ　内　藤　千　代　子
●赤坂區青山南町五ノ五へ　長　深　き　み　子
●麻布區麻布尼町へ　本　田　梅　子
●小石川女子大學高田寮へ　大　岡　つ　た　へ　子
●四谷區箪笥町三十七へ　古　田　友　子



◉交換寄贈雜誌（三月分）

●日本赤十字　京橋區築地二ノ二十一　日本赤十字發行所
●日本の家庭　神田區表神保町二　同文館
●東京藥事新報　京橋區柳町四　東京藥事新報社
●東京小間物化粧品商報　日本橋區馬喰町二ノ十九　東京小間物化粧品商事務所
●治療藥報　日本橋區南茅場町　治療藥報社
●女醫界　東京市牛込市ヶ谷河田町　東京女醫學校
●家庭新聞　熊本市内坪井町百五十八　家庭新聞社
●家庭雜誌　麹町元園町一ノ二十七　由分社
●家庭新聞　本郷四丁目五　家庭新聞社
●大日本耳鼻咽喉科會々報　東京醫科大學耳鼻咽喉科醫局内　大日本耳鼻咽喉科會
●牟婁新報　和歌山縣西牟婁郡田邊町上屋敷町六五　牟婁新報社
●藥石新報　大阪市西區江戸堀下通三ノ三十六　藥石新報社
●藥業時報　神田區鍛冶町二十一　藥業時報社
●經濟新報　麹町區永田町二ノ七十三　經濟新報編輯部
●婦人世界　大阪市南區末吉橋四ノ六三　浪華婦人會

●婦女新聞　牛込區五軒町四十一　婦女新聞社
●婦人とこども　本郷區女子高等師範學校内　フレーベル會
●福田會月報　麻布區麻布笄町百三　福田會育兒院
●文の友　日本橋區通一丁目　大倉書店
●國家醫學會雜誌　本郷區富士町一　國家醫學會雜誌發行所
●工手の母　大阪市北區西野田新家西ノ町番外三二五　工手ノ母新聞社
●交通世界　埼玉縣浦和町三九三五　交通協會
●衞生報知　神戸市山生町一ノ二十七　私立神戸市衞生會
●越佐教育雜誌　新潟市東仲通一番丁二二七　越佐教育雜誌社
●衞生談話　麹町區飯田町四ノ三十二　通俗衞生茶話會
●英學生　神田區駿河臺北甲賀町十　東西社
●衞生新報　下谷區池ノ端仲町十九　衞生新報社
●衞生新報　和歌山市小松原通三ノ二　衞生新報社
●愛國婦人　麹町區飯田町一丁目一　愛國婦人發行所
●草樂新聞　大阪市南區心齋橋筋二ノ七　草樂新聞社
●產科婦雜誌　日本橋區濱町三ノ七　日本產科婦協會
●埼玉衞生新誌　埼玉縣北足立郡浦和町二三五　埼玉衞生新誌社
●明治の家庭　牛込區納戸町六　明治の家庭社
●兒童の教育　神田區末廣町十六　兒童の新聞社
●神經學雜誌　小石川區駕籠町東京醫科大學精神學教室内　日本神經學會
●廣島衞生醫事月報　廣島市猫屋町　廣島衞生醫事月報社
●ひじり慈門鈴　愛知縣岡崎町常生齋外　慈善堂發行所
●品性論　東京本郷區駒込西片町十　内外出版協會
●青容　下谷區谷中初音町三ノ三九　青容社
●日本婦人　府下豐多摩郡澁谷村字常盤松御料地内　帝國婦人協會
●新潟縣衞生會雜誌　新潟縣廳内　新潟縣衞生會

消化新藥

工學博士高峰讓吉氏に由て發見せる胃腸新藥タカヂアスターゼは粉末錠劑水劑の數種として各藥店に販賣せらる

摸造品數多あり必ずタカヂアスターゼ名稱及弊店名義に乞御注意

本劑に關する說明書は御申越次第贈呈す

東京市南茅場町二番地　三共商店藥品部



滋養新劑 ブリコナール錠

▲本劑は佐伯矩氏が北里博士研究室に於て牡蠣の滋養成分に就て研究創製せられ多くの醫學者より其効顯卓絶なるを承認せられたる最新滋養劑なり▲百錠入として有名藥店にて販賣す

肺病其他衰弱性の病者は本劑の服用に由て速に其體力を恢復し元氣亢進す

本劑の說明書は御申越次第無代郵送す

發賣元　東京市南茅場町二　三共商店藥品部

私立大日本婦人衛生會 新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには 本會衛生雜誌を配布す●第五條會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演説をなすべし●第八條毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條一般慈善事業の賛助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

事務所新潟市本町通十三番戸中村
とけ子方

（明治廿九年四月創立） 新潟支會

私立大日本婦人衛生會 高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し 三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條 當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條 支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す 又幹事評議員は役員中より會長之を指名す 但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條 本會の特別賛成員を定員外の評議員とす●第十條當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條 會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得 但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條 總て會費の徴收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上宛前納すべし●第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條 特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄合町五十番地 高崎支會

月刊

産科婦雜誌

毎月一回五日發行（見本郵着金拾三錢）（一ケ年前金郵稅共金壹圓）

本誌は日本産科婦協會の機關にして創刊以來六星霜を閲し今玆に第七週年の初めに當り內容を整理し左の各欄に分つ

〔時論〕には主として時事問題につき穩健なる評騭と諸家の意見を紹介し〔原著及實驗〕〔臨床講義〕の二欄には斯學の精粹を輯む〔家庭〕には家庭衞生に關する講話〔家庭問答〕には家庭に關する質疑に應答し〔前月中の新聞雜誌〕にはこの紹介すべきものゝ要點を抄出し〔高等産科婦養成所講義〕には養成講師の講述また執筆せるものを收む

產科婦人科楠田病院內

發行所　東京市日本橋區濱町三丁目七番地　日本産科婦協會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし 本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出つべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは 其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會

宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス 各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ツベシ●第五條本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ケ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ケ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ紺布ヲ用フルヲ禁ズ第九條特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會

米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を増進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地 猪股方に置く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く 其任期は各一年とす

第四條 毎月一回(第二日曜午後一時より四時迄)講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ 事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に届出べし

但し已納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として 特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め 一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條 一會員及員外篤志者より金品の寄贈あるときは 役員協議の上特待員又は賛成員となすべし

第九條 講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條 特に支會則に掲げざるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

最良煉乳

アメミルク

育兒者は特に此廣告に注意せらるべし

醫學博士 高橋順太郎
藥學博士 下山順一郎

兩先生の指導製品にして純良牛乳に古來滋養品として賞用せらるゝ日本特有の最良水飴を配合精製せるものなれば滋養卓絶氣味又佳快なり殊に本品の特長は鑵詰めに際し殺菌せるを以て永く變敗せず各地有名藥店食料品店にて販賣せらる

▲東京市日本橋區南茅場町二番地

發賣元 三共商店藥品部



速記應囑

事務所の特長は深切にして然も迅速なるにあり女流の會合にして男子を近け難き場合若くは著述家飜譯家等の爲めには特に女子の速記者をして之に當らしむ

麹町區富士見町五丁目九番地

佃速記事務所

電話番町四十八番

高橋齒科醫院

東京日本橋區本町二丁目

（電話本局千六百六番）

診察時間 午前九時ヨリ午後五時迄

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章
第三號
メッキ製拾二錢、送費六錢
●第二號
正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章
第一號
七十錢（黑檢箱入送費九錢）
六十錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なども御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵劵一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者　田中德三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　飯田三千太郎

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

明治三十九年五月十九日印刷
明治三十九年五月廿三日發行（毎月一回二十日發行）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN